



福島県立美術館
年報
令和3年度
2021



福島県立美術館
年報
令和3年度・2021

福島県立美術館年報
令和3年度（2021）

目次

設置の目的と立地	2
沿革	3
令和3年度主要記事	4
第1節 委員会等	4
美術館運営協議会	
他館等との連携	
第2節 収集・保存	5
収蔵作品点数	
収集評価委員会	
図書資料の収集	
保存管理	
第3節 展示事業	6
常設展	
特集展示	
企画展	
アンケート結果	
観覧者数一覧	
第4節 調査研究事業	28
第5節 普及事業	28
館内解説	
鑑賞講座	
創作プログラム	
美術館・学校教育連携事業	
県立図書館との連携事業	
第6節 その他の事業	31
施設・設備の整備	
動画配信等による情報発信	
館外連携	
関係法規	33
予算	40
施設・設備	41
施設配置図	42
組織図・職員名簿	43
利用案内	44

◆設置の目的と立地



福島県立美術館は、すぐれた美術作品にふれることで人々の感受性が高まり、情操が養われ、憩いと喜びのなかに創造の手がかりが得られる場として、1984（昭和59）年7月に、隣接する福島県立図書館とともに設けられました。

この目的のために、収蔵作品の充実をはかり、貴重な文化財である美術品の保存につとめ、継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を積極的に展開するとともに、美術に関するさまざまな情報を提供します。

美術館は、福島市のシンボルであり、憩いの場として親しまれている信夫山のふもとにあります。福島駅からも近く、交通の便もよい場所にありながら、野鳥の声もきこえる静かで落ち着いた環境にあります。60,000㎡もの広大な敷地には、樹木や花々、広い芝生や日本庭園があり、散策や休息の場として親しまれています。

美術館と図書館は、多面的な機能と豊富な情報にもとづく、さまざまなサービスを提供することによって、見る・聴く・語る・作る・考える空間として活用していただくことをめざしています。

◆沿革

1977年	5月	文化を考える県民会議を設置			「移動美術館」開始（第1回は喜多方市美術館）
	6-8月	文化に関する県民意識調査を実施			
1978年	1月	文化を考える県民会議より「県の文化振興について」を県知事に報告	2000年	3月	『福島県立美術館所蔵作品選 ポケット・ミュージアム』発行
	7月	文化振興会議を設置		4月	第四代館長に酒井哲朗が就任(-2012年3月)
1979年	2月	文化振興会議より「文化振興策の具体策について」を県知事に報告		7月	空調機械工事（第一期）竣工、再開館（20日）
	3月	文化施設等整備基金条例制定	2001年	11月	19日以降休館となる（-2002年4月26日）
	4月	県教育庁文化課内に文化施設班を置く			空調機械工事（第二期）等着工
	6月	福島県立美術館基本構想検討委員会を設置（委員10人を委嘱）	2002年	3月	空調機械工事（第二期）、展示室改修工事竣工（県立図書館空調工事も竣工）
	12月	美術品等取得基金条例制定		4月	再開館（27日） レストラン「カフェ・ドゥ・ミュゼ ムスターシュ」開店（-2008年3月23日）
1980年	1月	「福島県立美術館建設基本構想について」を同委員会より知事に報告		10月	「美術館友の会（仮称）設立に向けて県民の意見を聴く会」を設置
	2月	美術館・図書館の建設地を福島市に決定 版画家斎藤清氏より県に自作227点が寄贈される	2003年	4月	高校生以下の常設展観覧料金を無料化 「福島県立美術館友の会設立发起人会」を開催、友の会発足
	4月	福島県立美術館収集評価委員会を設置（委員7人を委嘱） 美術館・図書館の建設地を福島大学経済学部跡地に決定	2004年	6月	「特定非営利活動法人 福島県立美術館協力会」発足
	5月	第1回収集評価委員会開催、ワイエス「松ぼっくり男爵」他の購入を決定		7月	「アートオブスター・ウォーズ展」開催、77,601人の観覧者を記録する
	12月	美術館基本設計を委託（大高建築設計事務所）		10月	開館20周年記念展「田園の夢」開催
1981年	7月	美術館実施設計を委託（大高建築設計事務所）	2005年	3月	『収蔵作品図録 1990-2005』発行
1982年	7月	美術館設計工事着工	2006年	5月	入館者通算200万人を記録する
1984年	3月	美術館本體工事完了 福島県立美術館条例を議決		8月	初の県立美術館・図書館連携事業として「アートなおはなしかい」を開催
	4月	福島県立美術館設置	2008年	10月	レストラン「ミュゼ・ドゥ・カナール」新装開店
	6月	福島県立美術館博物館所管の県有美術品365点を移管	2009年	7月	開館25周年記念展「福島県立美術館のすべて」「文化の力」「アルバム」展開催
	7月	開館（22日）初代館長に原田實が就任（-1989年3月）	2011年	3月	12日以降東日本大震災の被害により臨時休館となる（4月25日）
		開館記念展第1部「戦後の名作に見る人間像」展開催 『所蔵品図録抄』を発行		4月	再開館（26日）
	10月	第1回運営協議会開催		5月	入館者通算300万人を記録
1986年	3月	『研究紀要第1号』発行	2012年	2月	震災復旧工事のため1日以降休館となる（-4月6日）
1989年	4月	第二代館長に佐藤昌志が就任(-1990年3月)		4月	第五代館長に早川博明が就任(-2020年3月)
1990年	3月	『収蔵作品図録 1984-1989』発行	2013年	7月	「若沖が来てくれました」展開催、155,592人の観覧者を記録する
	4月	館長事務代行を教育長兼務とする（-1992年3月）	2014年	7月	開館30周年記念展「コレクション・クッキング」展開催
1992年	4月	第三代館長に長谷部満彦が就任（-2000年3月）	2015年	4月	6日以降休館となる（-2016年4月1日）
1994年	7月	開館10周年記念展「ルネサンスの絵画」「日本画の風景」開催			空調設備等改修工事着工
1995年	6月	入館者通算100万人を記録する	2016年	4月	再開館（2日）
1998年	4月	「ピカソ回顧展」開催、67,125人の観覧者を記録する			名誉館長に酒井哲朗が就任
1999年	3月	屋根改修工事着工	2019年	4月	「フェルメールとレンブラント」展開催、104,519人の観覧者を記録する
	8月	屋根改修工事のため23日以降常設展を休止（-2000年7月19日）			「東日本大震災復興祈念 伊藤若沖展」開催、116,344人の観覧者を記録
	9月	通算100本目の企画展「生誕100年関根正二展」を開催	2020年	4月	第六代館長に長根由里子が就任
	10月	18日以降休館となる（-2000年7月19日）			新型コロナウイルス感染拡大防止のため19日以降臨時休館となる（-5月15日）
		空調機械改修工事（第一期）着工		8月	改修工事のため31日以降休館となる（-2021年5月21日）
			2021年	5月	再開館（22日）

◆令和3年度主要記事（2021.4 - 2022.3）

第1節 委員会等

令和3（2021）年

- 4月 1日 改修工事にともなう休館（2020年8月31日～
～5月21日）
村上茂利主査・荒木康子専門員着任
- 5月22日 再開館、「第Ⅰ期常設展」開幕（-9月5日）
特集展示「佐藤玄々（朝山）の彫刻／福島作家・
福島の風景」開幕（-6月20日）
- 7月 8日 「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展」開幕
（-9月5日）
- 8月21日 常設展無料観覧日（県民の日）
- 9月 6日 展示替にともなう臨時休館（-13日）
9月14日 「第Ⅱ期常設展」開幕（-12月26日）
9月20日 常設展無料観覧日（敬老の日）
9月23日 「THE ドラえもん展 FUKUSHIMA 2021」展開幕
（-11月23日）
- 11月 3日 常設展無料観覧日（文化の日）
- 12月 2日 美術館・図書館合同消防訓練
12月 4日 「瀬戸正人 記憶の地図」展開幕（-1月30日）

令和4（2022）年

- 1月 5日 「第Ⅲ期常設展」開幕（-3月6日）
1月12日 「美術館への年賀状展」開幕（-30日）
- 2月 8日 「福島アートアニュアル2022」展開幕（-3月6日）
- 3月 8日 施設メンテナンスにともなう臨時休館（-18日）
3月10日 令和3年度運営協議会
3月16日 福島県沖地震発生（震度5強）
3月19日 「第Ⅰ期常設展」開幕（-7月10日）
「写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2&どうぶつ
家族」開幕（-5月22日）
3月31日 伊藤匡専門員退任、嶋原由夏主査転任

1 美術館運営協議会

(1) 委員

- 山口 功 福島県中学校教育研究会美術部所属
（平成25.1.1～）
- 番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属
（平成27.1.1～）
- 大沼博文 公益財団法人福島県文化振興財団理事長
（令和3.1.1～） ※会長
- 坂本節子 福島県家庭教育インストラクター
（平成25.1.1～） ※副会長
- 齋藤勝正 福島県美術家連盟顧問
（平成29.1.1～）
- 半沢治久 日本放送協会福島放送局長
（令和2.9.15～）
- 岡部兼芳 はじまりの美術館館長
（令和3.1.1～）
- 齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長・教授
（平成27.1.1～）
- 笠原美智子 アーティゾン美術館副館長
（令和3.1.1～）
- 舟木藤弘 福島県立美術館友の会理事
（平成29.1.1～）

(2) 協議会の開催

期日：令和4年3月10日(木)

内容：・令和3年度事業の概要について

- ・福島県立美術館運営計画（案）について
- ・令和4年度事業計画（案）の概要について
- ・その他（福島県立美術館の運営等について）

2 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

〈加盟団体〉

- ・全国美術館会議（会員）
- ・日本博物館協会（会員）
- ・日本博物館協会東北支部（会員）
- ・東北地区博物館協会（会員）
- ・福島県博物館連絡協議会（理事）

第2節 収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的に行っている。

令和3年度の収集評価委員会は令和4年2月22日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症によるまん延防止等重点措置が適用されていたため中止とした。

1 収蔵作品点数(令和4年3月31日現在)

種別	購入点数	受贈点数	移管点数	合計
海外作品	421	29	0	450
日本画	75	170	116	371
洋画	99	720	96	920
素描・下絵	15	184	17	217
版画	376	732	40	1,148
写真	0	390	20	410
立体	14	83	48	145
工芸	76	49	33	158
書	0	3	36	39
合計	1,077点	2,360点	410点	3,858点
美術資料				69件

2 収集評価委員会

(1) 委員

中山恵理	郡山市立美術館主任主査(令和元.12.1～)
西山純子	千葉市美術館上席学芸員(令和3.12.1～)
濱崎礼二	宮城県美術館副館長(令和3.12.1～)
松下由里	群馬県立近代美術館次長兼学芸係長(令和3.12.1～)
水沢 勉	神奈川県立近代美術館長(令和元.12.1～)

(2) 委員会の開催

期日：令和4年2月22日(火) →中止

3 図書資料の収集

収蔵図書数 63,811冊(令和4年2月15日現在)

4 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

(1) 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)

時期：令和3年6月7日～21日、8月15日～29日(調査期間)

[報告書は7/14、9/24提出]

内容：展示室、収蔵庫、搬入口およびその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

(2) 美術作品の修復

井上武吉《My Sky Hole 89-2》のクリーニング、山内神斧《和蘭陀船》、大石源太郎《風景》、若松光一郎作品4点(《出漁前》、《作品(A)》、《[作品]》、《無題》)の修復を行うとともに、大宮政郎作品9点の額を交換、新調した。

また、令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により被災した鳥井美央《冬の漁港》、橋本章《地平》、《砂による絵画・作品No.10》の修復及び16作品の額の修復・交換を行った。

(3) 放射線測定

美術館施設内および敷地内の放射線測定を実施、測定結果を当館ホームページで公開している。なお、震災後10年が経過し、線量も落ち着いていることから、令和2年度より測定回数および箇所数を減じることとした。

時期：令和3年4月22日、7月23日、10月22日、令和4年1月21日 計4回測定

場所：美術館内および敷地内、計9か所

測定機種：ALOKA TCS-172(γ線)

第3節 展示事業

1 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して通常、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。令和3年度は、休館期間があったため、展示替えは3回行った。

(1) 常設展示

① 「コレクション展Ⅰ」

会期：前期＝令和3年5月22日(土)～7月16日(金)

後期＝令和3年7月17日(土)～9月5日(日)

内容：・日本画の名品：速水御舟《女二題》、福田豊四郎《ふるさとへ帰る》

・アメリカの美術：ワイエス《松ぼっくり男爵》、シャーン《リルケ「マルテの手記」より》など

・フランス美術の名品：ルノワール《帽子を被る女》、シャガール《死せる魂》など

・関根正二と近代の洋画：森田恒友《漁村風景》、安井曾太郎《ターブルの上》、関根正二《姉弟》、村山槐多《庭園の少女》、長谷川利行《浅草の女》など

・斎藤清の版画：《雨のミシガン》《競艶》《凝視(花)》《京都の壁(B)》

・銅版画の魅力(前期)：長谷川潔《アレキサンドル三世橋とフランスの飛行船》

・創作版画(後期)：山本鼎・青木繁《鑪斧》、渡辺光徳《すか川 御隠居岳》

出品リスト (*は寄託作品)：

展示室 A

◆日本画の名品

橋本 関雪 (1883-1945) 『倪雲林』1917 (大正6) 年 絹本着色

速水 御舟 (1894-1935) 『女二題 其一』1931 (昭和6) 年 絹本着色

速水 御舟 (1894-1935) 『女二題 其二』1931 (昭和6) 年 絹本着色

安田 鞞彦 (1884-1978) 『茶室』1962 (昭和37) 年 紙本着色

猪巻 清明 (1894-1974) 『はさみ将棋』1934 (昭和9) 年 紙本着色

小川 芋銭 (1868-1938) 『細道絵日記』1911 (明治44) 年 紙本墨画淡彩

平福 百穂 (1877-1933) 『赤茄子と芋』1911 (明治44) 年 絹本着色

横山 大観 (1868-1958) 『山間旅行之図』1901 (明治34) 年 紙本墨画 *

小杉 放庵 (1881-1964) 『水荘訪客』大正末期 絹本墨画淡彩

小茂田 青樹 (1891-1933) 『農婦』1914 (大正3) 年頃 絹本着色

酒井 三良 (1897-1969) 『村芝居』1921 (大正10) -1924 (大正13) 年 絹本着色

勝田 蕉琴 (1879-1963) 『安らかなる鳥の巣』1921 (大正10) 年 絹本着色、屏風二曲一雙

福田 豊四郎 (1904-1970) 『ふるさとへ帰る』1964 (昭和39) 年 紙本着色、屏風四曲一雙

松本 榮 (1927-2007) 『志摩』1968 (昭和43) 年 紙本着色

大山 忠作 (1922-2009) 『爽涼』1980 (昭和55) 年 紙本着色

室井 東志生 (1935-2012) 『儂』1984 (昭和59) 年 紙本着色

福王寺 法林 (1920-2012) 『バドガオンの月』1982 (昭和57) 年 紙本着色

山本 丘人 (1900-1986) 『月夜の噴煙』1962 (昭和37) 年 絹本着色

展示室 B

ヘンリー・ムーア (1898-1986) 『母と子：腕』1980 年 ブロンズ

◆アメリカの美術

アンドリュー・ワイエス (1917-2009) 『ガニング・ロックス』1966 年 紙、水彩

アンドリュー・ワイエス (1917-2009) 『松ぼっくり男爵』1976 年 ボード、テンペラ

アンドリュー・ワイエス (1917-2009) 『そよ風』1978 年 紙、水彩

ジョン・スローン (1871-1951) 『ジェファーソンマーケット ナイト』1911 年 カンヴァス、油彩

ジョン・スローン (1871-1951) 『サンタフェからの二人の女』1921 年 カンヴァス、油彩

ジョン・スローン (1871-1951) 『五番街の批評家たち』1940 年 カンヴァス、油彩

レジナルド・マーシュ (1898-1954) 『回転ブランコ』1931 年 板、テンペラ

国吉 康雄 (1889-1953) 『婦人と子供』1920 (大正9) 年 カンヴァス、油彩

ベン・シャーン (1898-1969) 『トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー』1932-1933 年 紙、グアッシュ

ベン・シャーン (1898-1969) 『W. P. A. サンデー』1939 年 紙、グアッシュ

ベン・シャーン (1898-1969) 『スイミングプール』1945 年 ボード、テンペラ

ベン・シャーン (1898-1969) 『ラッキードラゴン』1960 年 綿布、テンペラ

ベン・シャーン (1898-1969) 『久保山とラッキードラゴン伝説』1965 年 書籍

ベン・シャーン (1898-1969) 『これらあらゆる権利のために我々は闘いを開始したのだ』1946 年 紙、リトグラフ [前期]

ベン・シャーン (1898-1969) 『我々は平和を望んでいる』1946 年 紙、リトグラフ [前期]

ベン・シャーン (1898-1969) 『労働者より農民へ……感謝をこめて』1944 年 紙、オフセット [前期]

ベン・シャーン (1898-1969) 『我々フランス労働者は警告する』1942 年 紙、オフセット [後期]

ベン・シャーン (1898-1969) 『警告! ……インフレーションは不況を意味する』1946 年 紙、オフセット [後期]

ベン・シャーン (1898-1969) 『これがナチの残虐だ』1942 年 紙、オフセット [後期]

ベン・シャーン (1898-1969) 『リルケ「マルテの手記」より：一行の詩のためには……』1968 年 紙、リトグラフ

(1) 扉1/(3) 多くの都市を/(7) 飛ぶ鳥の姿/(18) 星くずとともに消え去った旅寝の夜々/(19) 愛にみちた多くの夜の回想 [前期]

(5) 多くの事物を/(13) 心を悲しませてしまった両親を/(16) 海辺の朝/(23) 死者の傍で/(24) 一篇の詩の最初の言葉 [後期]

◆フランス美術の名品

カミーユ・コロー (1796-1875) 『ヴィル・ダヴレー 林をぬけてコロア家へ向かう池沿いの道』1873 年 カンヴァス、油彩

クロード・モネ (1840-1926) 『ジヴェルニーの草原』1890 年 カンヴァ

ス、油彩 [前期]

ポール・ゴーギャン (1848-1903) 『ブルターニュの子供』1889年 紙・水彩、パステル [後期]

ピエール＝オーギュスト・ルノワール (1841-1919) 『帽子を被る女』制作年不詳 カンヴァス・油彩

マルク・シャガール (1887-1985) 『版画集《死せる魂》』(96点組) 1923-25年 (1948年発行) 紙、銅版

(1) チーチコフの到着/(2) 旅籠屋/(8) マニーロフ/(14) 四輪馬車がひっくり返る/(17) 放し飼いの庭/(19) 道案内/(24) トランプ/(28) 農民たち集まる/(35) 支度のできた食卓/(37) チーチコフとサバケーヴィチは取引をする [前期]

(41) プリュエシキンの村/(49) プリュエシキンと口論するマーヴラ/(51) ゴーゴリとシャガール/(65) 賄賂/(73) 舞踏会にあらわれたチーチコフ/(81) やせ細った役人たち/(84) 検事死す/(85) 歯痛/(93) 教会にて/(96) 夕暮れのトロイカ [後期]

展示室 C

◆関根正二と近代の洋画

高橋 由一 (1828-1894) 『栗山昔時景』1881 (明治14) 年頃 亜麻布、油彩

三宅 克己 (1874-1954) 『信濃路の春』制作年不詳 紙、水彩

丸山 晚霞 (1867-1942) 『溪流(飛騨蒲田の激湍)』1912 (大正元) 年 紙、水彩

青木 繁 (1882-1911) 『漁夫晩帰 下図』1908 (明治41) 年 板にカンヴァス、油彩

森田 恒友 (1881-1933) 『漁村風景』1900年代 紙、油彩

萬 鉄五郎 (1885-1927) 『庫』1918 (大正7) 年 カンヴァス、油彩

安井 曾太郎 (1888-1955) 『テーブルの上』1912 (大正元) 年 カンヴァス、油彩

関根 正二 (1899-1919) 『姉弟』1918 (大正7) 年 カンヴァス、油彩
関根 正二 (1899-1919) 『神の祈り』1918 (大正7) 年頃 カンヴァス、油彩

関根 正二 (1899-1919) 『[樹] (表)』1916 (大正5) 年 インク、紙 個人蔵 [前期]

関根 正二 (1899-1919) 『[人物習作] (裏)』1916 (大正5) 年 インク、紙 個人蔵 [後期]

関根 正二 (1899-1919) 『大樹』1915 (大正4) 年 木炭、紙

関根 正二 (1899-1919) 『裸婦』1915 (大正4) 年 木炭、紙

岸田 劉生 (1891-1929) 『静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)』1918 (大正7) 年 カンヴァス、油彩

村山 槐多 (1896-1919) 『庭園の少女』1914 (大正3) 年 紙、水彩

川口 軌外 (1892-1966) 『柘榴』1932 (昭和7) 年 カンヴァス、油彩

長谷川 利行 (1891-1940) 『浅草の女』1935 (昭和10) 年 カンヴァス、油彩

寺田 政明 (1912-1989) 『谷中風景』1929 (昭和4) 年 ボール紙、油彩

松本 竣介 (1912-1948) 『駅』1942 (昭和17) 年 板に紙、油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『草』1932 (昭和7) 年 カンヴァス、油彩

麻生 三郎 (1913-2000) 『家族』1959 (昭和34) 年 カンヴァス、油彩

桂 ゆき (1913-1991) 『親亀の背中に子亀をのせて』1970 (昭和45) 年 板、油彩、コラージュ

鎌田 正蔵 (1913-1999) 『小家族 (A)』1981 (昭和56) 年 カンヴァス、アクリル

展示室 D

◆斎藤清の版画 [前期]

斎藤 清 (1907-1997) 『雨のミシガン』1956 (昭和31) 年 紙、木版
斎藤 清 (1907-1997) 『ショッピング・パリ』1960 (昭和35) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『ノートルダム、パリ (B)』1960 (昭和35) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『猫 (1)』1963 (昭和38) 年 紙、コラグラフ

斎藤 清 (1907-1997) 『ニューメキシコ』1965 (昭和40) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『六月、鎌倉 (B)』1972 (昭和47) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『競艶』1973 (昭和48) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『霊峰 (15)、晴天なり』1980 (昭和55) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『かすみ 慈愛』1991 (平成3) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『風』1997 (平成9) 年 紙、木版

◆斎藤清の版画 [後期]

斎藤 清 (1907-1997) 『少女』1936 (昭和11) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『北海の魚市』1939 (昭和14) 年頃 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『鏡 (自画像)』1938 (昭和13) 年頃 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『みろく』1948 (昭和23) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『ミルク』1949 (昭和24) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『凝視 (猫)』1948 (昭和23) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『凝視 (花)』1950 (昭和25) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『直子』1950 (昭和25) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『館』1955 (昭和30) 年 紙、木版

斎藤 清 (1907-1997) 『京都の壁 (B)』1960 (昭和35) 年 紙、木版

◆銅版画の魅力 [前期]

長谷川 潔 (1891-1980) 『アレキサンドル三世橋とフランスの飛行船』1930 (昭和5) 年 紙、メゾチント

長谷川 潔 (1891-1980) 『玻璃球のある静物』1959 (昭和34) 年 紙、メゾチント

長谷川 潔 (1891-1980) 『狐と葡萄 (ラ・フォンテーヌ寓話)』1963 (昭和38) 年 紙、メゾチント

駒井 哲郎 (1920-1976) 『束の間の幻影』1950 (昭和25) 年 紙、アクアチント

駒井 哲郎 (1920-1976) 『海底の祭』1951 (昭和26) 年 紙、メゾチント、ソフトグラウンドエッチング

駒井 哲郎 (1920-1976) 『調理場』1960 (昭和35) 年 紙、アクアチント

浜田 知明 (1917-2018) 『風景』1953 (昭和28) 年 紙、エッチング

浜田 知明 (1917-2018) 『初年兵哀歌 (歩哨)』1954 (昭和29) 年 紙、エッチング、メゾチント

浜田 知明 (1917-2018) 『副校長 D 氏像』1956 (昭和31) 年 紙、エッチング

浜口 陽三 (1909-2000) 『西瓜』1954 (昭和29) 年

浜口 陽三 (1909-2000) 『白菜』1960 (昭和35) 年

浜口 陽三 (1909-2000) 『14のさくらんぼ』1963 (昭和38) 年 紙、メゾチント

◆創作版画 [後期]

山本 鼎 (1882-1946) : 刻 / 青木 繁 (1882-1911) : 画 『鑪斧』1905 (明治38) 年 紙、木口木版

岸田 劉生 (1891-1929) 『天地創造』より「3、石を噛む人」1914 (大正3) 年 紙、銅版

竹久 夢二 (1884-1934) 『山へよする』より「表紙」1919 (大正8)

年 紙、木版

- 田中 恭吉 (1892-1915) 『画稿より』 1915(大正4)年 紙、木版
 恩地 孝四郎 (1891-1955) 『母と子』 1917(大正6)年 紙、木版
 渡辺 光徳 (1887-1945) 『すか川 御隠居岳』 制作年不詳 紙、エッチング
 平川 清蔵 (1897-1964) 『風景(坂の道)』 1926(大正15)頃 紙、木版
 川上 澄生 (1895-1972) 『賭博者』 1925(大正14)年 紙、木版
 深沢 素一 (1896-1946) 『風景』 1925(大正14)年頃 紙、木版
 藤森 静雄 (1891-1943) 『路傍の小猫』 1929(昭和4)年 紙・木版
 谷中 安規 (1897-1946) 『詩巻(心の花I)』 1934(昭和9)年 紙、木版

屋外・ホール彫刻

- 林 範親 (1948-) 『路地裏』 1994(平成6)年 ナラ、ヒバ、古材、アクリル絵具
 佐藤 忠良 (1912-2011) 『若い女・シャツ』 1982(昭和57)年 ブロンズ
 ジャコモ・マンズー (1908-1991) 『車に乗った子供』 1982年 ブロンズ
 エミリオ・グレコ (1913-1995) 『スケートをする女』 1951年 ブロンズ
 マリノ・マリーニ (1901-1980) 『騎手』 1956-1957年 ブロンズ
 井上 武吉 (1930-1998) 『My Sky Hole 89-2』 1989(平成元)年 ステンレス、鏡面磨き
 フェルナン・レジェ (1881-1955) 『歩く花』 1952-53年 原型作成 ブロンズ、エナメル塗装 *



展示風景

② 「コレクション展Ⅱ」

会期：前期＝令和3年9月14日(火)～11月10日(木)
 後期＝令和3年11月11日(木)～12月26日(日)

- 内容：・没後20年 鈴木治・山田光：鈴木治《掌上泥象三十八景》、山田光《黒陶 数字と窓》
 ・現代の日本画：齋藤隆《ドラマ(地の巻)》、津田一江《連鎖と残影の自画像》
 ・関根正二と大正期の洋画：岸田劉生《静物》、関根正二《一本杉の風景》《自画像》
 ・吉井忠とモンパルナスの画家たち：松本竣介《駅》、麻生三郎《家族》、吉井忠《空の祭壇》
 ・海外作品の名品：ワイエス《ドイツ人の住むところ》、シャーン《恐怖の夜の町》、コロー《ヴィル・ダヴレー》、ゴーギャン《ブルターニュの子供》
 ・現代の版画：野田哲也《日記 1973年10月25日》、横尾忠

則《聖シャンバラ》、斎藤清《教会、フランス(A)》《シグナル(A)》/《赤い花》《ヌード》

出品リスト (*は寄託作品)

展示室 A

展示室 A

◆没後20年 鈴木治・山田光

- 鈴木治 (1926-2001) 『数の土面』 1963(昭和38)年 陶土
 鈴木治 (1926-2001) 『泥像』 1965(昭和40)年 陶土
 鈴木治 (1926-2001) 『馬形』 1982(昭和57)年 陶土
 鈴木治 (1926-2001) 『掌上泥象三十八景』 (38点組) 1987(昭和62)年 原型制作 2000(平成12)年 焼成 陶土
 午後ノ太陽/雲ノすき間/太陽のプランコ/太陽の懸橋/春の雲/雲ノ化石/流れ雲/天に向ふ雲/ふくらむ雲/風ノ通い路/雲ノ鏡/太陽のシグナル/重い雲/消えた雲/太陽ノ道/雲ノ帽子/赤い月/雲ノ肖像/雲ノ表裏/雲ノ翳/夏ノ雲/風ノ道/雲ノ区域/雲ノ投影/朱夏ノ月/山の上にかかる高い雲/風ノ十字路/太陽ノ椅子/風のカーテン/山の上にかかる雲/ゆるる雲/風ノ家/太陽ノ信号/天に到る雲/雲ノ手袋/装飾的な雲/雲ノ情景/朱夏ノ雲
 鈴木治 (1926-2001) 『連歌』 (3点組) 1991(平成3)年 陶土
 山田光 (1923-2001) 『作品』 1966(昭和41)年 陶土
 山田光 (1923-2001) 『白の間隙』 1971(昭和46)年 陶土
 山田光 (1923-2001) 『黒陶と金彩の窓』 1981(昭和56)年 黒陶・金彩
 山田光 (1923-2001) 『黒陶 陶面の中のパイプ』 1981(昭和56)年 黒陶、磁土
 山田光 (1923-2001) 『黒陶 数字と窓』 1984(昭和59)年 黒陶
 山田光 (1923-2001) 『銀泥 楕円のパイプ』 1995(平成7)年 陶、ステンレス・銀泥
 山田光 (1923-2001) 『銀泥 陶壁』 1991(平成3)年 陶・銀泥

◆現代の日本画

- 星野 眞吾 (1923-1997) 『麻紙による心象(集)』 1960(昭和35)年 紙本着色
 星野 眞吾 (1923-1997) 『暗色の記憶』 1979(昭和54)年 紙本着色
 齋藤 隆 (1943-) 『ドラマ(地の巻)』 1986(昭和61)年 紙・コンテ
 齋藤 隆 (1943-) 『ドラマ(天の巻)』 1986(昭和61)年 紙・コンテ *
 菊地 養之助 (1908-2003) 『階段の人』 1951(昭和26)年 紙本着色
 菊地 養之助 (1908-2003) 『人物 A』 1952(昭和27)年 紙本着色
 上野 泰郎 (1926-2005) 『つきぬいのち』 1991(平成3)年 紙本着色
 上野 泰郎 (1926-2005) 『人間讃美』 1977(昭和52)年 紙本着色
 内田 あぐり (1949-) 『ロマノフの海』 1984(昭和59)年 紙本着色
 津田一江 (1950-) 『地(physical)』 1984(昭和59)年 紙本着色
 津田一江 (1950-) 『連鎖と残影の自画像』 2000(平成12)年 紙本着色

展示室 B

◆関根正二と大正期の洋画

- 岸田 劉生 (1891-1929) 『静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)』 1918(大正7)年 カンヴァス・油彩
 岸田 劉生 (1891-1929) 『自画像』 1914(大正3)年 カンヴァス・油彩
 岸田 劉生 (1891-1929) 『天地創造 欲望』 1914(大正3)年 紙・銅版
 木村 荘八 (1893-1958) 『自画像』 1915(大正4)年 紙・インク、墨
 関根正二 (1899-1919) 『自画像』 1916(大正5)年 紙・インク
 関根正二 (1899-1919) 『菊川橋』 1916(大正5)年 紙・インク
 関根正二 (1899-1919) 『一本杉の風景』 1918(大正7)年 カンヴァス・油彩

関根 正二 (1899-1919) 『姉弟』 1918 (大正 7) 年 カンヴァス・油彩
関根 正二 (1899-1919) 『神の祈り』 1918 (大正 7) 年頃 カンヴァス・油彩

撮影者不詳『関根正二ポートレート』 1918(大正 7) 年頃 ゼラチンシル
バープリント *

◆吉井忠とモンパルナスの画家たち

長谷川 利行 (1891-1940) 『浅草の女』 1935 (昭和 10) 年 カンヴァス・油彩

長谷川 利行 (1891-1940) 『芝居小屋』 1936(昭和 11) 年 紙・水彩 河野保雄コレクション

井上 長三郎 (1906-1995) 『馬』 制作年不詳 カンヴァス・油彩 河野保雄コレクション

井上 長三郎 (1906-1995) 『ドン・キホーテ』 制作年不詳 カンヴァス・油彩 河野保雄コレクション

霞光 (1907-1946) 『梨とレモン』 1942(昭和 17) 年 ボード・油彩 河野保雄コレクション

松本 竣介 (1912-1948) 『赤い建物』 1936(昭和 11) 年 紙・油彩

松本 竣介 (1912-1948) 『駅』 1942 (昭和 17) 年 板に紙・油彩

麻生 三郎 (1913-2000) 『裸婦』 1956(昭和 31) 年 紙・水彩 河野保雄コレクション

麻生 三郎 (1913-2000) 『裸婦』 1956(昭和 31) 年 紙・水彩 河野保雄コレクション

麻生 三郎 (1913-2000) 『家族』 1959 (昭和 34) 年 カンヴァス・油彩

寺田 政明 (1912-1989) 『谷中風景』 1929(昭和 4) 年 ボール紙・油彩

寺田 政明 (1912-1989) 『いきもの』 1959(昭和 34) 年 カンヴァス・油彩

鎌田 正蔵 (1913-1999) 『庭園』 1938(昭和 13) 年 カンヴァス・油彩

若松 光一郎 (1914-1995)[無題] 1930年代 カンヴァス・油彩

若松 光一郎 (1914-1995)[花] 1930年代 板・油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『空の祭壇』 1937(昭和 12) 年 カンヴァス・油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『静物』 1940(昭和 15) 年 カンヴァス・油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『くるみを割る自画像』 1941(昭和 16) 年 カンヴァス・油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『麦の穂を持つ女』 1941(昭和 16) 年 カンヴァス・油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『犠牲者』 1952(昭和 27) 年 カンヴァス・油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『老農夫』 1964(昭和 39) 年 カンヴァス・油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『とかげとふくろう』 1958(昭和 33) 年 カンヴァス・油彩

吉井 忠 (1908-1999) 『解氷期』 1968(昭和 43) 年 カンヴァス・油彩

展示室 C

◆海外作品の名品

アンドリュウ・ワイエス (1917-2009) 『ドイツ人の住むところ』 1973 年 紙・水彩

アンドリュウ・ワイエス (1917-2009) 『松ぼっくり男爵』 1976 年 ボード、テンペラ

ジョン・スローン (1871-1951) 『ジェファーソンマーケット、ナイト』 1911 年 カンヴァス・油彩

ジョン・スローン (1871-1951) 『サンタフェからの二人の女』 1921 年 カンヴァス・油彩

トーマス・ハート・ベントン (1889-1975) 『サワーウッド・マウンテンで彼女ができたよ』 1938 年 紙・リトグラフ

トーマス・ハート・ベントン (1889-1975) 『日曜日の朝』 1939 年 紙・リトグラフ

ベン・シャーン (1898-1969) 『農民にたずねよ』 1941 年 ボード・グアッシュ

ベン・シャーン (1898-1969) 『恐怖の夜の町』 1951 年 ボード・グアッシュ、テンペラ

ベン・シャーン(1898-1969)『創造のアルファベット』1963年 紙・グアッシュ

ベン・シャーン (1898-1969) 『文字をめぐる愛と喜び』 1963 年 出版書籍 グロスマン社発行

マックス・エルンスト (1891-1976) 版画集《博物誌》(34 点組) 1926 年 紙・フロッタージュ、コロタイプ

海と雨／彼ははるかかなたに落ちていくだろう／戦場。洪水、地震の植物／案山子／壁すれすれに／ダイヤモンド婚／死の食事／太陽の通貨制度 [前期]

地震／誤った位置／鞭打ち、もしくは火山岩の紐／菩提樹は従順である／木の葉の習性／大陸に足を踏み入れろ／スフィンクスの馬小屋にて／イヴ、我々に残された唯一の女 [後期]

ピエール＝オーギュスト・ルノワール (1841-1919) 『帽子を被る女』 制作年不詳 カンヴァス・油彩

カミーユ・コロー (1796-1875) 『ヴィル・ダヴレー 林をぬけてコロア家へ向かう池沿いの道』 1873 年 カンヴァス・油彩

ポール・ゴーギャン (1848-1903) 『プルターニュの子供』 1889 年 紙・水彩、パステル

ジョルジュ・ルオー (1871-1958) 版画集《流れる星のサーカス》1934-35 年 (1938 年出版) 紙・銅版

黒いピエロ／こびと／バレリーナたち [前期]

扉絵―見世物小屋の呼び込み／曲芸師／オーギュスト [後期]

ヘンリー・ムーア (1898-1986) 『母と子：腕』 1980 年 ブロンズ

展示室 D

◆現代の版画 [前期]

野田哲也 (1940-) 『日記 1973 年 10 月 25 日』 1973(昭和 48) 年 紙・木版、シルクスクリーン

野田哲也 (1940-) 『日記 1974 年 9 月 1 日』 1974(昭和 49) 年 紙・リトグラフ

野田哲也 (1940-) 『日記 1975 年 11 月 12 日 (c)』 1975(昭和 50) 年 紙・木版、シルクスクリーン

野田哲也 (1940-) 『日記 1976 年 8 月 19 日』 1976(昭和 51) 年 紙・木版、シルクスクリーン

野田哲也 (1940-) 『日記 1980 年 4 月 27 日、厚木』 1980(昭和 55) 年 紙・木版、シルクスクリーン

野田哲也 (1940-) 『日記 1987 年 5 月 30 日、柏市亀甲台 2-12-4』 1987(昭和 62) 年 紙・木版、シルクスクリーン

野田哲也 (1940-) 『日記 1994 年 3 月 10 日』 1994(平成 6) 年 紙・木版、シルクスクリーン

斎藤 清 (1907-1997) 『教会、フランス (A)』 1960(昭和 35) 年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『本屋、セーヌ、パリ』 1960(昭和 35) 年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『パリ (3)』 1961(昭和 36) 年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『パリ (4)』 1961(昭和 36) 年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『雨、パリ (B)』 1962(昭和 37) 年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『シグナル (A)』 1962(昭和 37) 年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『セントラル公園、ニューヨーク』 1962(昭和 37) 年 紙・コラグラフ

斎藤 清 (1907-1997) 『セーヌ、パリ』 1963(昭和 38) 年 紙・コラグラフ

フ

斎藤 清 (1907-1997) 『メキシコ (B)』 1963(昭和38)年 紙・コラグラ
ラフ

◆現代の版画 [後期]

横尾忠則 (1936-) 《聖シャンバラ》 1974(昭和49)年 紙・シルクス
クリーン、オフセット

序文/土其天/土其天/土地/水其天/水其地/火其天/火其地/
風其天人地/空其人/空其地

斎藤 清 (1907-1997) 『赤い花』 1948(昭和23)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『椿』 1948(昭和23)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『ヌード (B)』 1950(昭和25)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『ヌード』 1950(昭和25)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『無我』 1950(昭和25)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『無我 (B)』 1953(昭和28)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『凝視、モデル、パリ (A)』 1960(昭和35)年 紙・
木版

斎藤 清 (1907-1997) 『アン (シアトル)』 1962(昭和37)年 紙・コラグラ
ラフ

斎藤 清 (1907-1997) 『ヌード (B)』 1963(昭和38)年 紙・コラグラ
ラフ

屋外・ホール彫刻

林 範親 (1948-) 『路地裏』 1994(平成6)年 ナラ、ヒバ、古材、ア
クリル絵具

佐藤 忠良 (1912-2011) 『若い女・シャツ』 1982(昭和57)年 ブロン
ズ

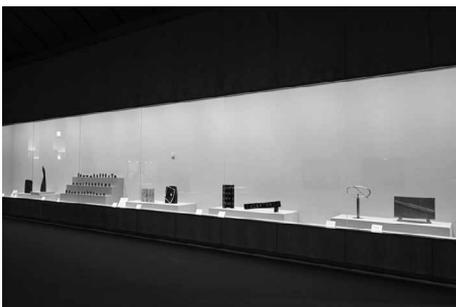
ジャコモ・マンズー (1908-1991) 『車に乗った子供』 1982年 ブロン
ズ

エミリオ・グレコ (1913-1995) 『スケートをする女』 1951年 ブロンズ

マリノ・マリーニ (1901-1980) 『騎手』 1956-1957年 ブロンズ

井上 武吉 (1930-1998) 『My Sky Hole 89-2』 1989(平成元)年 ステ
ンレス、鏡面磨き

フェルナン・レジェ (1881-1955) 『歩く花』 1952-53年 原型作成 ブ
ロンズ、エナメル塗装 *



展示風景

③ 「コレクション展Ⅲ」

会期：令和4年1月5日(水)～3月6日(日)

内容：・冬の日本画—ふるさとの風景：酒井三良《雪に埋もれつつ
正月はゆく》《冬暖》、森田恒友《雪国帖》、福田豊四郎《春
を待つ》

・佐藤玄々の彫刻：佐藤玄々(朝山)《禮酪》《青鳩》(河野保
雄コレクション)

・関根正二と洋画：高橋由一《三県道路完成記念帖》、関根正

二《真田吉之助夫妻像》

- ・「福島の新世代」展をふりかえる：高橋克之《集会》、玉川
信一《凍日》、安藤栄作《約束のつばさ》、山中現《第二夜》
- ・海外の名品選：国吉康雄《婦人と子供》、シャーン《ラッキー
ドラゴン》、ルオー《ミセレーレ》、モネ《ジヴェルニーの草原》
- ・写真家 サマラッティ：ペンティ・サマラッティ《猪苗代湖、
会津若松市》《南相馬市》
- ・写真家 小関庄太郎：《田舎の風景》《手をふる少女》《冬の子供》

出品リスト (*は寄託作品)

展示室 A

◆冬の日本画—ふるさとの風景

酒井 三良 (1897-1969) 『雪に埋もれつつ正月はゆく』 1919(大正8)年
絹本着色(屏風二曲一隻)

酒井 三良 (1897-1969) 『冬暖』 1936(昭和11)年 絹本着色(屏風二曲
一隻)

酒井 三良 (1897-1969) 『左義長』 1920(大正9)年 絹本着色(軸装)

勝田 蕉琴 (1879-1963) 『霜の朝』 1923(大正12)年 絹本着色(軸装)

下村 観山 (1873-1930) 『寒空』 1923(大正12)年 絹本着色(軸装)

湯田 玉水 (1879-1929) 『霜風千林図』 1926(大正15)年 絹本墨画淡彩(軸
装)

速水 御舟 (1894-1935) 『晩冬の桜』 1928(昭和3)年 絹本着色

森田 恒友 (1881-1933) 『雪国帖』 1920(大正9)年 紙本墨画淡彩

福田 豊四郎 (1904-1970) 『春を待つ』 1930(昭和5)年 絹本着色

斎藤 清 (1907-1997) 『会津の冬(8)川井』 1981(昭和56)年 紙本墨画

斎藤 清 (1907-1997) 『会津の冬(5)西会津・牧』 1982(昭和57)年 紙
本墨画

斎藤 清 (1907-1997) 『会津の冬、高田・下馬場』 1984(昭和59)年 紙
本墨画

斎藤 清 (1907-1997) 『会津の冬(19)』 1970(昭和45)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『会津の冬(28)』 1977(昭和52)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『会津の冬(57)』 1982(昭和57)年 紙・木版

斎藤 清 (1907-1997) 『会津の冬(71)若松』 1987(昭和62)年 紙・木版

佐藤 玄々(朝山)(1888-1963) 『禮酪』 1914(大正3)年 木彫*

佐藤 玄々(朝山)(1888-1963) 『青鳩』 1933(昭和8)年 木彫彩色 河野
保雄コレクション

◆関根正二と大正期の洋画

高橋 由一 (1828-1894) 『三県道路完成記念帖』 栃木県、福島県、山形
県 1885(明治18)年 紙・石版、手彩色*

高橋 由一 (1828-1894) 『鐸木西美像』 1881(明治14)年 カンヴァス・
油彩

亀井 至一 (1843-1905) 『第四代田中太右衛門邦懿像』 制作年不詳 カン
ヴァス・油彩*

赤城 泰舒 (1889-1955) 『雨の止みまに』 1914(大正3)年 紙・水彩*

高橋 勝蔵 (1860-1917) 『WOODSHOLL(森の入江)』 1906(明治39)年
カンヴァス・油彩*

佐久間 文吾 (1868-1940) 『花(牡丹)』 制作年不詳 カンヴァス・油彩*

村山 槐多 (1896-1919) 『庭園の少女』 1914(大正3)年 紙・水彩

三岸 好太郎 (1903-1934) 『婦人像』 1931(昭和6)年 頃紙・グアッシュ*

関根 正二 (1899-1919) 『[茅葺き屋根の農家のある風景]』 1916(大正5)
年 綿布・油彩*

関根 正二 (1899-1919) 『真田吉之助夫妻像』 1918(大正7)年 カンヴァ
ス・油彩

関根 正二 (1899-1919) 『姉弟』 1918(大正7)年 カンヴァス・油彩

須田 国太郎 (1891-1961) 『白浜風景習作』 1955(昭和30)年 カンヴァス・油彩

須田 国太郎 (1891-1961) 『棚上静物』 1952(昭和27)年 カンヴァス・油彩

展示室B

◆「福島の新世代」展をふりかえる

高橋 幸彦 (1947-) 『一如』 2004(平成16)年 板・紙、有色石膏地、油彩

加藤 学 (1961-) 『無題』 1996(平成8)年 麻カンヴァス・アクリル

加藤 学 (1961-) 『トノガヤト02』 1997-98(平成9-10)年 麻カンヴァス・アクリル

宇田 義久 (1966-) 『water-line 07-1(white)』 2007(平成19)年 パネル・糸、アクリル、ウレタンニス

宇田 義久 (1966-) 『water-line 08-02(blue)』 2008(平成20)年 パネル・糸、アクリル、ウレタンニス

小林 浩 (1967-) 『星辰軌道』 2010(平成22)年 カンヴァス・アクリル

高橋 克之 (1967-) 『集会』 1996(平成8)年 パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル、木炭

高橋 克之 (1967-) 『石の世界(道の中を見る)』 2003(平成15)年 パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル

玉川 信一 (1954-) 『凍日』 1995(平成7)年 カンヴァス・油彩

玉川 信一 (1954-) 『凧の日』 1992(平成4)年 カンヴァス・油彩

安藤 栄作 (1961-) 『約束のつばさ』 1996(平成8)年 木(ベイスギ)

安藤 栄作 (1961-) 『宇宙動力』 2011年 木(ホウノキ)*

宗像 利浩 (1957-) 『瑠璃天目茶碗』 2008(平成20)年 陶器

坂本 朝夫 (1950-) 『ハブニング』 1989(平成元)年 段ボール紙・漆(5点組のうちの1点)

三瓶 光夫 (1974-) 『玉響457』 2005(平成17)年 紙・メディウムのはがし刷りによる木版画

山中 現 (1954-) 『第二夜』 1984(昭和59)年 紙・木版

山中 現 (1954-) 『浜辺の夢』 1989(昭和64/平成元)年 和紙・木版

山中 現 (1954-) 『時の柱』 2009(平成21)年 和紙・木版

安部 直人 (1952-) 『まなざし』 1990(平成2)年 紙・ディープエッチング、メゾチント

安部 直人 (1952-) 『卵型二態Ⅲ』 1990(平成2)年 紙・ディープエッチング、メゾチント

安部 直人 (1952-) 『Anonymous I』 1995(平成7)年 紙・ディープエッチング、メゾチント

展示室C

◆海外の名品選

国吉 康雄 (1889-1953) 『婦人と子供』 1920(大正9)年 カンヴァス・油彩

ベン・シャーン (1898-1969) 『ラッキードラゴン』 1960年 綿布・テンペラ

アンドリュー・ワイエス (1917-2009) 『ガニング・ロックス』 1966年 紙・水彩

アンドリュー・ワイエス (1917-2009) 『そよ風』 1978年 紙・水彩

ジョルジュ・ルオー (1871-1958) 版画集《ミセレーレ》1922-27年(1948年出版) 紙・銅版 58点組のうち

(1) 神よ、我を憐れみたまえ、御身の大きいなる慈悲によりて／(6) 我らは苦役囚ではないのか／(10) 長き苦悩の古き場末にて／(11) 明日は晴れるだろう、難破した者は、そう言った／(13) 愛すれば心嬉しきに／(27)

物に涙あり・・・／(37) 人は人にとって狼／(42) 母たちに忌み嫌われる戦争／(46) 《正しき人は、白檀の木のごとく己れを打つ斧に香を移す》／(56) 高慢と無信仰のこの暗き時代に、地の果てより聖母は見守る
マルク・シャガール (1887-1985) 版画集《死せる魂》1923-25年(1948年刊行) 紙・エッチング、ドライポイント、アクアチント(本) 96点組のうち

(2) 旅籠屋／(10) マニーロフ邸の食事／(18) 朝のお茶／(21) 旅籠屋での食事／(35) 支度のできた食卓／(36) 食卓のサバケーヴィチ／(47) プリュースキンは酒をすすめる／(67) 警察署長宅での晩餐／(79) 酒宴はつかみあいに終わる

クロード・モネ (1840-1926) 『ジヴェルニーの草原』 1890年 カンヴァス・油彩

ピエール＝オーギュスト・ルノワール (1841-1919) 『帽子を被る女』 制作年不詳 カンヴァス・油彩

カミーユ・コロー (1796-1875) 『ヴィル・ダヴレー 林をぬけてコロー家へ向かう池沿いの道』 1873年 カンヴァス・油彩

ジャコモ・マンズー (1908-1991) 『車に乗った子供』 1982年 ブロンズ
ヘンリー・ムア (1898-1986) 『母と子：腕』 1980年 ブロンズ

展示室D

◆写真家・サマラッティ

ペンティ・サマラッティ (1950-) 『猪苗代湖、会津若松市』／『大沼郡』／『喜多方市』／『会津若松市』／『双葉郡』／『大沼郡』／『相馬郡』／『沼沢湖、大沼郡』／『郡山市』／『河沼郡』／『南相馬市』 ※すべて2006年 ゼラチン・シルバー・プリント

◆写真家・小関庄太郎

小関 庄太郎 (1907-2003) 『田舎の風景』 1926(大正15)年／『田園小景』 1926(大正15)年／『一人歩む』 1929(昭和4)年／『駅と人像』 1931(昭和6)年4月／『二人像』 1932(昭和7)年6月／『手をふる少女』 1933-36(昭和8-昭和11)年／『冬の子供』 1934(昭和9)年2月／『帰郷』 1934(昭和9)年8月／『微光』 1935(昭和10)年2月／『働き男』 1936(昭和11)年5月／『夕照』 1938(昭和13)年／『遠い汽車』 1941(昭和16)年 ※すべてゼラチン・シルバー・プリント

屋外・ホール彫刻

林 範親 (1948-) 『路地裏』 1994(平成6)年 ナラ、ヒバ、古材、アクリル絵具

佐藤 忠良 (1912-2011) 『若い女・シャツ』 1982(昭和57)年 ブロンズ

エミリオ・グレコ (1913-1995) 『スケートをする女』 1951年 ブロンズ

マリノ・マリーニ (1901-1980) 『騎手』 1956-1957年 ブロンズ

井上 武吉 (1930-1998) 『My Sky Hole 89-2』 1989(昭和64/平成元)年 ステンレス、鏡面磨き

フェルナン・レジェ (1881-1955) 『歩く花』 1952-53年 原型作成 ブロンズ、エナメル塗装*

2 特集展示

- (1) 横井美恵子コレクション—佐藤玄々（朝山）の彫刻—
- (2) 福島の作家・福島の風景



A3 チラシ

会期：令和3年5月22日(土)～6月20日(日) 開催日数26日
 分野：(1) 彫刻 (2) 日本画、洋画、写真、陶芸
 展示数：(1) 19点 (2) 24点
 観覧料：常設展料金
 観覧者数：1,721名
 担当：(1) 増渕鏡子 (2) 伊藤 匡

関連事業：

- ・担当学芸員によるギャラリートーク

「佐藤玄々（朝山）の彫刻」

講師：増渕鏡子（専門学芸員）

日時：6月5日(土) 14:00～15:00 企画展示室 A-2

参加者数：15名

「福島の作家・福島の風景」

講師：伊藤 匡（専門員）

日時：6月19日(土) 14:00～15:00 企画展示室 A-1

参加者数：20名

概要：

収蔵作品を活用した特集展示として、2つのテーマ展を開催した。

佐藤玄々（朝山）の彫刻：相馬市出身の佐藤玄々（朝山）は近代日本を代表する彫刻家の一人。今回は横井美恵子コレクションから、令和元年度に新たに寄贈された《牝猫》《銀鳩》《蜥蜴》などを中心に19点を紹介した。

福島の作家・福島の風景：近年当館のコレクションに加わった作品から、酒井三良、黒沢吉蔵、吉井忠、緑川宏樹、瀬戸正人らの日本画、洋画、写真、陶芸作品を紹介した。あわせて、2021年1月に90歳で逝去した彫刻家橋本堅太郎と、2020年7月に逝去した三浦哲往の作品を追悼展示した。



「佐藤玄々（朝山）の彫刻」展示風景



「佐藤玄々（朝山）の彫刻」ギャラリートーク



「福島の作家・福島の風景」展示風景



「福島の作家・福島の風景」ギャラリートーク

出品リスト：

[No./ 作家名 / 作品名 / 制作年 / 材質・技法 / 寸法 (cm) / 寄贈者]

〈横井美恵子コレクション—佐藤玄々(朝山)の彫刻—〉

- 1 佐藤玄々(朝山) 南洋人物像 1910代 木彫彩色 48.5×25.0×27.0 横井美恵子コレクション
- 2 佐藤玄々(朝山) 春 1917 木彫彩色 29.5×28.5×18.5 横井美恵子コレクション
- 3 佐藤玄々(朝山) 巢鶏 1920頃 木彫彩色 16.9×18.0×25.2 横井美恵子コレクション
- 4 佐藤玄々(朝山) 牛 1926 木彫 20.5×27.0×13.0 横井美恵子コレクション
- 5 佐藤玄々(朝山) 冬眠 1928 木彫 10.5×22.3×25.0 横井美恵子コレクション
- 6 佐藤玄々(朝山) 牝猫 1928 木彫 37.5×43.0×13.5 横井美恵子コレクション
- 7 佐藤玄々(朝山) 鳩巢 1928 木心乾漆 11.3×32.3×22.5 横井美恵子コレクション
- 8 佐藤玄々(朝山) 鼠 1930頃 木彫 h6.3×w18.5×d6.5 佐藤静江氏寄贈
- 9 佐藤玄々(朝山) 鹿 1931 木彫 46.0×29.0×10.5 横井美恵子コレクション
- 10 佐藤玄々(朝山) 白菜 1931 木彫 46.0×29.0×10.5 寄託作品
- 11 佐藤玄々(朝山) 鳩 1931頃 木彫 27.8×22.0×10.0 横井美恵子コレクション
- 12 佐藤玄々(朝山) 銀鳩 1931頃 木彫彩色 21.0×28.5 横井美恵子コレクション
- 13 佐藤玄々(朝山) 蜥蜴 1940代 木彫彩色 5.0×37.8×3.8 横井美恵子コレクション
- 14 佐藤玄々(朝山) 聖大黒天 1940代 木彫彩色 20.5×16.0×14.5 横井美恵子コレクション
- 15 佐藤玄々(朝山) 陶仏頭 1945 陶製 25.5×23.3×16.5 横井美恵子コレクション
- 16 佐藤玄々(朝山) 子鳩 1947以降 木彫 6.2×12.2×6.3 横井美恵子コレクション
- 17 佐藤玄々(朝山) 鶴 1947以降 木彫彩色 22.0×8.0×4.0 横井美恵子コレクション
- 18 佐藤玄々(朝山) 山風 1947以降 木彫彩色 41.5×50.8×11.0 横井美恵子コレクション
- 19 佐藤玄々(朝山) 山兔 1951頃 木彫 13.5×22×12.5 佐藤静江氏寄贈

〈福島作家・福島風景〉

- 1 橋本堅太郎 漂 1970年 木彫 114.1×26.8×31.5
- 2 橋本堅太郎 慈光 2006年 木彫 160×41×45
- 3 橋本高昇 双鹿 1928年 木彫 81.0×100.0×33.0 十文字真理子氏寄贈
- 4 三浦哲往 仮晶I 1973年 カンヴァス・油彩 161.8×130.8
- 5 緑川宏樹 裂 1988年 陶 17.3×20.0×22.5 緑川志保氏寄贈
- 6 緑川宏樹 裂 1988年 陶 17.5×22.5×22.0 緑川志保氏寄贈
- 7 緑川宏樹 薄(うすら) 1990年頃 陶 42.0×63.5×2.5 緑川志保氏寄贈
- 8 酒井三良 帰樵 1930年 紙本着色 74.0×90.8 坂本朝夫氏寄贈

- 9 酒井三良 雨はれ 1930年 紙本着色 74.0×92.8 坂本朝夫氏寄贈
- 10 酒井三良 そばの秋 1930年 紙本着色 73.5×92.2 坂本朝夫氏寄贈
- 11 酒井三良 雪暮 1930年 紙本着色 73.5×92.0 坂本朝夫氏寄贈
- 12 黒沢吉蔵 桜谷 2002年 紙本着色 162.2×227.3 長みさ氏寄贈
- 13 黒沢吉蔵 白い連峰(飯豊) 2004年 紙本着色 162.3×227.5 長みさ氏寄贈
- 14 吉井忠 さいろふ風景 1932年 カンヴァス・油彩 112.3×145.5 北條洋氏寄贈
- 15 吉井忠 あだたら山 1949年 カンヴァス・油彩 65.2×80.5 加藤好子氏寄贈
- 16 若松光一郎 風景 1956年 紙・コンテ、水彩 30.9×42.5 中川素直氏寄贈
- 17 若松光一郎 炭鉱風景 1956年 紙・コンテ、パステル 34.3×46.4 中川素直氏寄贈
- 18 若松光一郎 炭鉱風景(長屋) 1956年 紙・コンテ、パステル 34.3×48.0 中川素直氏寄贈
- 19 渡辺良雄 春雪 1969年 カンヴァス・油彩 129.7×129.7
- 20 瀬戸正人 梁川町 1984年 ゼラチン・シルバープリント 31.1×45.7 瀬戸正人氏寄贈
- 21 瀬戸正人 国見町 2001年 ゼラチン・シルバープリント 31.0×45.7 瀬戸正人氏寄贈
- 22 瀬戸正人 保原町 2011以前 ゼラチン・シルバープリント 31.1×45.7 瀬戸正人氏寄贈
- 23 瀬戸正人 会津/猪苗代湖畔 2013年 ゼラチン・シルバープリント 31.9×44.0 瀬戸正人氏寄贈
- 24 瀬戸正人 会津/早戸 2014年 ゼラチン・シルバープリント 31.9×44.0 瀬戸正人氏寄贈

3 企画展

(1) ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展



A4 チラシ

会期：令和3年7月8日(休)～9月5日(日) 開催日数52日
分野：日本美術
展示数：92点
観覧料：一般1,500(1,300)円、学生1,100(900)円、小・中・高校生650(600)円 * ()内は前売料または20名以上の団体料金
観覧者数：27,406名
担当：増渕鏡子、紺野朋子、坂本篤史

主催：ミネアポリス美術館福島展実行委員会〔構成：福島県立美術館、福島中央テレビ、福島民友新聞社〕
協賛：エフコム、ギャラリー菜根、大和ハウス工業福島支社、福島県商工信用組合

関連事業：

・出張レクチャー「ミネアポリス美術館 日本絵画コレクションの魅力」

講師：増渕鏡子（専門学芸員）

日時：6月11日(金) 11:50～12:40

会場：フォーラム福島 参加者数：30名

・出張レクチャー「ミネアポリス美術館 日本絵画名品展のみどころ」

講師：増渕鏡子（専門学芸員）

日時：7月15日(休) 14:00～15:00

会場：A・O・Z（アオウゼ） 参加者数：52名

概要：

ミネアポリス美術館は、アメリカ中西部の大都市ミネアポリスに1883年設立された。開館当初から日本美術を収集し、3,000点からなる浮世絵コレクションをはじめ、質量ともにアメリカ有数の日本美術コレクションを有することで有名である。

本展は伊藤若冲をはじめ、葛飾北斎の浮世絵など江戸絵画を中心に、その優れたコレクションの一端を紹介する展覧会。晩年を福島県三春で過ごした雪村や、会津ゆかりの浦上春琴、白河ゆかりの谷文晁の作品などが里帰りした。

新型コロナウイルス感染症の拡大時期であったが、万全の対策のもと多くの来館者があり、フォーラム福島やアオウゼとの連携企画なども盛況であった。



展示風景

出品リスト：

[No./ 作品名 / 絵師名 / 員数、材質・技法 / 制作年]

◆第1章 水墨画

- 1 粟に雀図 藝愛 一幅、紙本墨画 室町時代、16世紀
- 2 菊花小禽図 藝愛 一幅、絹本着色 室町時代、16世紀
- 3 花鳥図屏風 雪村周継 六曲一双、紙本墨画室町時代、16世紀
- 4 山水図 雪村周継 一幅、絹本墨画淡彩 室町時代、16世紀
- 5 江天暮雪図（瀟湘八景図のうち）海北友松 一幅、紙本墨画 桃山時代、16-17世紀
- 6 岩上鶴鶴図 雲谷等顔 一幅、紙本墨画 桃山時代、17世紀
- 7 龍虎図屏風 山田道安 六曲一双、紙本墨画 室町時代、16世紀

◆第2章 狩野派の時代

- 8 鷹図 狩野之信 一幅、紙本墨画 室町時代、16世紀
- 9 四季耕作図襖（旧・大覚寺正寝殿襖絵）伝 狩野山楽 十六面のうち八面、紙本着色 江戸時代、17世紀
- 10 群仙図襖（旧・天祥院客殿襖絵）狩野山雪 四面、紙本金地着色 江戸時代、正保3年（1646）
- 11 雲門好日図 狩野山雪 一幅、紙本墨画淡彩 江戸時代、17世紀
- 12 笛吹地藏図 狩野探幽 一幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、寛文10年（1670）
- 13 瀟湘八景図屏風 狩野探幽 八曲一隻、絹本墨画淡彩 江戸時代、寛文3年（1663）
- 14 騎獅文殊図 清原雪信 一幅、絹本着色 江戸時代、17世紀
- 15 飛天図 清原雪信飛天 一幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、17世紀

◆第3章 やまと絵—景物画と物語絵—

- 16 秋冬景物図屏風 六曲一隻、紙本金地着色 室町時代、16世紀
- 17 西行物語図屏風 六曲一双、紙本金地着色 江戸時代、17世紀
- 18 秋冬花鳥図屏風 長谷川等哲 六曲一双、紙本金地着色 江戸時代、17世紀
- 19 武蔵野図屏風 六曲一双、紙本金地着色 江戸時代、17世紀
- 20 誰が袖図屏風 六曲一双、紙本金地着色 江戸時代、17世紀
- 21 蹴鞠図屏風 六曲一隻、紙本金地着色 室町時代、16世紀
- 22 源氏物語図「胡蝶」 伝 土佐光吉 一幅、紙本着色 江戸時代、17世紀
- 23 きりぎりす絵巻 住吉如慶 一卷、紙本着色 江戸時代、17世紀

◆第4章 琳派

- 24 伊勢物語図色紙「布引の滝」 伝 俵屋宗達 一幅、紙本着色 江戸時代、17世紀
- 25 虎図 俵屋宗達 一幅、紙本墨画 江戸時代、17世紀
- 26 童子図 伝 俵屋宗達 一幅、紙本墨画 江戸時代、17世紀
- 27 源氏物語図屏風 伝 俵屋宗達 八曲一隻、紙本金地着色 江戸時代、17世紀
- 28 柳椿に鶯図 酒井抱一 一幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
- 29 源氏物語「秋好中宮」・白萩図 酒井抱一 団扇一柄、絹本着色 江戸時代、19世紀
- 30 富士三保松原図 鈴木其一 一幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
- 31 三夕図 鈴木其一 三幅対、絹本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
- 32 富士三保図 中村芳中 一幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
- 33 大原女図 中村芳中 一幅、紙本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
- 34 三十六歌仙図屏風 池田孤村 二曲一隻、絹本墨画着色 江戸時代、19世紀

◆第5章 浮世絵

- 35 阿国歌舞伎図屏風 六曲一隻、紙本金地着色 江戸時代、17世紀
- 36 舞妓図 一幅、紙本着色 江戸時代、17世紀
- 37 藤娘図 月岡雪鼎 一幅、絹本着色 江戸時代、18世紀
- 38 美人図 勝川春章 一幅、絹本着色 江戸時代、18世紀
- 39 三代瀨川菊之丞図 歌川豊春 一幅、絹本着色 江戸時代、18世紀
- 40 鴨川納涼図 歌川豊広 一幅、絹本着色 江戸時代、19世紀
- 41 美人図 三島上龍 一幅、絹本着色 江戸時代、19世紀
- 42 舞妓覗き見図 三島上龍 対幅、絹本着色 江戸時代、19世紀
- 43 坐舖八景 台子の夜雨 鈴木春信 中判錦絵 江戸時代、明和3年（1766）頃
- 44 見立渡辺綱と茨城童子 鈴木春信 中判錦絵 江戸時代、明和4-5年（1767-68）
- 45 四条河原夕涼躰 三枚續 鳥居清長 大判錦絵三枚続 江戸時代、天明4年（1784）頃
- 46 三田神社の夕立 鳥居清長 大判錦絵三枚続 江戸時代、天明7年（1787）頃
- 47 『画本虫撰』より「蝨・とかげ」 喜多川歌麿 一枚 江戸時代、天明8年（1788）
- 48 風俗美人時計 未ノ刻 娘 喜多川歌麿 大判錦絵 江戸時代、寛政10-11年（1798-99）
- 49 青樓六家選 大文字屋 一もと 喜多川歌麿 大判錦絵 江戸時代、享和元-2年（1801-02）
- 50 二代市川門之助の伊達与作 東洲斎写楽 大判錦絵 江戸時代、寛政6年（1794）
- 51 市川鰻蔵の竹村定之進 東洲斎写楽 大判錦絵 江戸時代、寛政6年（1794）
- 52 三代市川八百蔵の不破伴左衛門重勝 東洲斎写楽 細判錦絵 江戸時代、寛政6年（1794）
- 53 役者舞臺之姿繪 かうらいや 歌川豊国 大判錦絵 江戸時代、寛政7年（1795）
- 54 百物語 さらやしき 葛飾北斎 中判錦絵 江戸時代、天保2-3年（1831-32）
- 55 富嶽三十六景 甲州 三嵩越 葛飾北斎 大判錦絵 江戸時代、天保元-4年（1830-33）
- 56 富嶽三十六景 凱風快晴 葛飾北斎 大判錦絵 江戸時代、天保元-4年（1830-33）
- 57 富嶽三十六景 山下白雨 葛飾北斎 大判錦絵 江戸時代、天保元-4年（1830-33）
- 58 諸國瀧廻り 下野 黒髪山 きりふりの滝 葛飾北斎 大判錦絵 江戸時代、天保3年（1832）頃
- 59 諸國名橋奇覽 飛越の堺 つりはし 葛飾北斎 大判錦絵 江戸時代、天保5年（1834）頃
- 60 朝顔に蛙 葛飾北斎 大判錦絵 江戸時代、天保4-5年（1833-34）頃
- 61 江戸不忍弁天ヨリ東叡山ヲ見ル圖 溪斎英泉 大判錦絵 江戸時代、19世紀
- 62 東海道五拾三次之内 箱根 湖水圖 歌川広重 大判錦絵 江戸時代、天保3-4年（1832-33）頃
- 63 東海道五拾三次之内 蒲原 夜之雪 歌川広重 大判錦絵 江戸時代、天保3-4年（1832-33）頃

◆第6章 日本の文人画〈南画〉

- 64 山水図画帖 高芙蓉 一帖、紙本墨画淡彩 江戸時代、18世紀
- 65 西湖図 池玉蘭 一幅、絹本着色 江戸時代、18世紀
- 66 虎溪三笑図 与謝蕪村 一幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、18世紀

- 67 松島図 谷文晁 一幅、絹本着色 江戸時代、文政9年(1826)
 68 観獵図 細川林谷 一幅、紙本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
 69 戸隠連峰図 細川林谷 一幅、紙本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
 70 竹窓夜話図 細川林谷 一幅、紙本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
 71 渋温泉図 細川林谷 一幅、紙本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
 72 山水図巻 細川林谷 一卷、紙本墨画淡彩 江戸時代、天保6年(1835)
 73 春秋山水図屏風 浦上春琴 六曲一双、絹本墨画淡彩 江戸時代、文政4年(1821)

◆第7章 画壇の革新者たち

- 74 群鶴図屏風 曾我蕭白 六曲一双、紙本墨画 江戸時代、18世紀
 75 鳥窠白居易問答図 曾我蕭白 一幅、絹本墨画 江戸時代、18世紀
 76 旭日老松図 伊藤若冲 一幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、寛政12年(1800)
 77 叭々鳥図 伊藤若冲 一幅、紙本墨画 江戸時代、18世紀
 78 鶏図押絵貼屏風 伊藤若冲 六曲一双、紙本墨画 江戸時代、18世紀
 79 喜報三元図 熊斐 一幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、18世紀
 80 虎図 松井慶仲 一幅、紙本着色 江戸時代、19世紀
 81 蘭亭曲水図屏風 横山華山 六曲一隻、紙本金地着色 江戸時代、19世紀

◆第8章 幕末から近代へ

- 82 風神雷神図 佐竹永海 対幅、絹本墨画淡彩 江戸時代、19世紀
 83 蟬丸図 冷泉為恭 一幅、絹本着色 江戸時代、19世紀
 84 漆絵画帖 柴田是真 一帖、紙本漆絵 明治20年(1887)
 85 手長足長図 河鍋曉斎 対幅、紙本墨画淡彩 明治時代、19世紀
 86 お多福図 河鍋曉斎 一幅、絹本墨画淡彩 明治時代、19世紀
 87 巨鷲図 狩野芳崖 一幅、紙本墨画 明治21年(1888)頃
 88 鍾馗鬼共之図 青木年雄 一幅、絹本着色 明治時代、19世紀
 89 春山歸樵図 鈴木松年 一幅、絹本着色 明治時代、19-20世紀
 90 紫式部図 渡辺省亭 一幅、絹本着色 明治時代、19-20世紀
 91 花見図 池田蕉園 一幅、絹本着色 大正時代、20世紀
 92 春 山村耕花 一幅、絹本着色 大正4年(1915)

(2) THE ドラえもん展 FUKUSHIMA 2021



B2 ポスター

会期：令和3年9月23日(休)～11月23日(休) 開催日数54日
 分野：現代美術
 展示数：46点
 観覧料：一般・大学生 1,400(1,200)円、中学・高校生 1,200(1,000)円、小学生 500(400)円 * ()内は前売料金または20名以上の団体料金
 観覧者数：60,671名
 担当：橋本恵里、大北孝、堀宜雄

主催：THE ドラえもん展 FUKUSHIMA 2021 実行委員会 [構成：福島県立美術館、福島放送、福島民報社]
 特別協力：藤子プロ
 協賛：トヨタカローラ福島
 企画・制作：THE ドラえもん展 TOKYO 2017 実行委員会 [テレビ朝日、朝日新聞社、ADK EM、小学館、シンエイ動画、小学館集英社プロダクション、乃村工藝社]

概要：

1970年に藤子不二雄が発表した漫画「ドラえもん」は、アニメにもなって日本中の子供の人気者となった。本展は、国民的キャラクター「ドラえもん」をモチーフに、「あなただけのドラえもんを作ってください」という呼びかけに応えた現代アーティスト28組の46点で構成された展覧会である。

村上隆、奈良美智、蜷川実花など、現代美術のスーパースターたちや注目の若手作家たちが熱い思いをこめて作った1点しかないドラえもん作品が並んだ。

現代アートの楽しさにふれる格好の入門展であり、その魅力を家族連れや若年層の来場者に広く伝えられ、開催の意義を果たすことができた。



展示風景

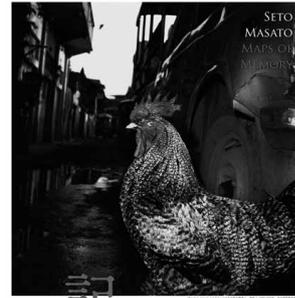
出品リスト：

[番号 / 画題 / 員数 / 寸法 (縦×横cm) / 来歴 / 所蔵 / 備考]

- 1 / 村上 隆 / ぼくと弟とドラえもんとの夏休み / 2002年 / 絵画 / 1800 × 1805 / キャンバス、アクリル
- 2 / 村上 隆 / あんなこといいな 出来たらいいな / 2017年 / 絵画 / 3000 × 6080 / 綿布、アクリル、金箔、プラチナ箔、アルミフレーム
- 3 / 福田美蘭 / レンブラントパレットを持つ自画像 / 2002年 / 絵画 / 2272 × 1818 / パネル、アクリル、布、デジタルグラフ印刷
- 4 / 福田美蘭 / 波上群仙図 / 2017年 / 絵画 / 2272 × 1818 / パネル、アクリル
- 5 / Mr. / 重力ちようせつ機 / 2017年 / 絵画 / 1620 × 1940 / キャンバス、アクリル
- 6 / 会田 誠 / キセイノセイキ〜空気〜 / 2017年 / 絵画 / 1620 × 1300 / キャンバス、アクリル、油彩
- 7 / 蜷川実花 / ドラちゃん1日デートの巻 / 2002年 / 写真
- 8 / 蜷川実花 / ドラちゃん1日デートの巻 / 2017年 / 写真
- 9 / 町田久美 / 星霜 / 2017年 / 絵画 / 1400 × 1450 / 高知和紙、岩絵具、顔料、墨、金泥、金箔、銀箔、金属箔、鉛筆、油性色鉛筆
- 10 / 小谷元彦 / 救世銅鑼エ門 / 2017年 / 立体 / 1720 × 1080 × 740 / FRP、ウレタンフォーム、木材、鉄、動物の毛、銀ほか
- 11 / 森村泰昌 + コイケジュンコ / Ji-Ku-Mo-Ko プロジェクト「空を越えるドレス」 / 2017年 / 写真 + 衣装 / 〈ドレス〉カラージュ:紙、フェイクファー / 〈どこでもドア〉: 彫刻、塗装 / 発泡スチロール、ウレタン樹脂、木材、ラッカー塗料
- 12 / 森村泰昌 + コイケジュンコ / Ji-Ku-Mo-Ko プロジェクト「時を駆けるドレス」 / 2017年 / 写真 + 衣装 / 〈ドレス〉カラージュ:紙、フェイクファー / 〈タイムマシン〉: 彫刻、塗装 / 発泡スチロール、ウレタン樹脂、木材、ラッカー塗料
- 13 / 森村泰昌 & ザ・モーヤーズ / ドラス / 2002年 / 写真 + 衣装 / 1820 × 416 すその奥行き 1239 / 〈ドレス〉: カシミア97%、ポリウレタン3% / 〈バッグ〉: ポリウレタン
- 14 / 梅 佳代 / 私の家のドラえもんの写真 / 2001 ~ 2013年 / 写真 / タイプCプリント
- 15 / しりあがり寿 / 万事解決! 劣化防止スプレーの巻 / 2017年 / 映像
- 16 / 山口 晃 / ノー・アイテム・デー / 2017年 / 絵画 / 840 × 600、600 × 840 / 和紙、墨、ペン
- 17 / 奈良美智 / Untitled / 2002年 / 立体 / 200 × φ 80
- 18 / 奈良美智 / ドラミちゃんのためのスケッチ / 2002年 / 絵画 / 紙、色鉛筆
- 19 / 奈良美智 / ジャイアンにリボンをとられたドラミちゃん / 2002年 / 絵画 / 2590 × 1815 / キャンバス、アクリル
- 20 / 奈良美智 / 練習 / 2017年 / 絵画 / 紙、鉛筆
- 21 / 奈良美智 / ヤンチャモン / 2017年 / 絵画 / 紙、鉛筆
- 22 / 奈良美智 / 真夜中の猫型ロボットのためのスケッチ / 2017年 / 絵画 / 紙、鉛筆
- 23 / 奈良美智 / 依然としてジャイアンにリボンをとられたままのドラミちゃん@真夜中 / 2017年 / 絵画 / 1940 × 1620 / キャンバス、アクリル
- 24 / 奈良美智 / 真夜中のネコ型ロボット / 2002年 / 絵画 / 360 × 360 / 紙、アクリル
- 25 / 西尾康之 / OPTICAL APPARITION / 2017年 / 立体 / 2100 × 1500 × 930 / 樹脂石膏、陰刻鋳造、3DCG

- 26 / 鴻池朋子 / ドラえもん の歌 on 森吉山 / 2017年 / 映像
 27 / 鴻池朋子 / しずかちゃんの洞窟 / 2017年 / 絵画 / 5000 × 12000 / 牛皮、毛皮、水性クレヨン
 28 / 佐藤雅晴 / かくれんぼ / 2017年 / 映像 / シングルチャンネル・ビデオ、歌声：二階堂和美
 29 / 渡邊 希 / タイムドラベル / 2017年 / 立体 / 1800 × 3600 × 200 / 漆、麻布、乾漆
 30 / 渡邊 希 / 3D / 2017年 / 立体 / 漆、麻布、乾漆
 31 / 後藤映則 / 超時空間 / 2017年 / メディアアート / 450 × φ 800 / ナイロン、プロジェクション
 32 / クワクボリョウタ / 鈴と太陽～ひみつ道具博物館～ / 2017年 / インスタレーション / 鉄道模型、LED、日用品ほか
 33 / れなれな / 静かな決意 / 2017年 / 絵画 / 1720 × 1080 × 740 / 黒板、白チョーク、スマート技法、空気遠近法に基づいた白墨画
 34 / 篠原愛 / To the Bright ～のび太の魔界大冒険～ / 2017年 / 絵画 / 1120 × 1620 / キャンバス、油彩
 35 / 山本竜基 / 山本空間に突入するドラえもんたち / 2017年 / 絵画 / 1168 × 1168 / キャンバス、アクリル
 36 / 増田セバスチャン / さいごのウエポン / 2017年 / 立体 / 2600 × 1800 × 1500 / 木材、布、綿、プラスチック、毛糸
 37 / 山口英紀 / ドラえもん ひみつ道具図典 ～タケコプター～ / 2017年 / 絵画 / 335 × 530 / 和紙、水墨
 38 / 伊藤 航 / ドラえもん ひみつ道具図典 ～タケコプター～ / 2017年 / 立体 / 150 × 220 / ケント紙
 39 / 山口英紀 / ドラえもん ひみつ道具図典 ～自動万能工事マシン～ / 2017年 / 絵画 / 和紙、水墨
 40 / 伊藤 航 / ドラえもん ひみつ道具図典 ～自動万能工事マシン～ / 2017年 / 立体 / ケント紙
 41 / 中塚翠涛 / 楽えもん / 2017年 / 書画 / 和紙、墨
 42 / 中塚翠涛 / 光と影 / 2017年 / 書画 / 1900 × 3000 / 和紙に染め刷り、墨、アクリル、ペン
 43 / 坂本友由 / 僕らはいつごろ大人になるんだろう / 2017年 / 絵画 / 3240 × 1620 / キャンバス、アクリル
 44 / 中里勇太 / 選んだゆめときぼう / 2017年 / 立体 / 1200 × 1200 × 1500 / 樟、彩色
 45 / シシヤマザキ / (Pink) Dust In The Wind ～すべては (ピンクの) もやの中に / 2017年 / 映像 / デジタルペイント、ロトスコープ
 46 / 近藤智美 / ときどきりくつにあわないことするのが人間なのよ / 2017年 / 絵画 / 2212 × 1458 / パネル、油彩、アクリル

(3) 瀬戸正人 記憶の地図



A4 チラシ

会期：令和3年12月4日(土)～令和4年1月30日(日) 開催日数 41日

分野：写真

展示数：139点

観覧料：一般・大学生 800(700)円、高校生 400(300)円、小・中学生 200(150)円 * ()内は20名以上の団体料金

観覧者数：1,763名

担当：荒木康子、白木ゆう美、伊藤 匡

主催：福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ

協賛：ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン

関連事業：

・映画上映会「トオイと正人」(監督・脚本：小林紀晴 / 原作：瀬戸正人 / ナレーション：鶴田真由 / 出演：瀬戸正人、尾方聖夜 / 音楽：いろのみ 2021年、カラー 63分)

日時：① 12月5日(日) 10:30、14:00 参加者数：70名
 14:00の回終了後に瀬戸正人氏と小林紀晴氏によるアフタートークを実施

② 令和4年1月15日(土) 10:30、13:00、15:00 参加者数：50名

会場：美術館講堂 料金：無料

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：荒木康子(専門員)

① 12月18日(土) 14:00～ 参加者数：10名

② 令和4年1月9日(日) 14:00～ 参加者数：10名

・「瀬戸正人写真学校 in 福島」と作品展示

講師：瀬戸正人氏 参加者数：40名

① 8月22日(日) 13:30～ 美術館講堂 瀬戸氏は東京からリモートで参加

② 9月19日(日) 緊急事態宣言のため中止

③ 10月24日(日) 13:30～ 美術館講堂

④ 11月21日(日) 13:30～ 美術館講堂

⑤ 12月12日(日) 13:30～ 企画展示室B

⑥ 12月26日(日) 13:30～ 企画展示室Bにおいて作品展示

・瀬戸正人氏による特別ギャラリートーク

日時：12月26日(日) 12:30～ 参加者数：70名
 ・「瀬戸正人写真学校 in 福島 成果展」
 会期：1月5日(木)～1月30日(日) 会場：企画展示室B

概要：

瀬戸正人（1953-）はタイ国ウドーンタニ市に、日本人の父とベトナム人の母のもとに生まれ、1961年に父の故郷である福島県の梁川町に移り住んだ。高校卒業後、上京して写真を学び、1996年には特異な視点で都会に生きる人々を見つめた〈Living Room, Tokyo 1989-1994〉〈Silent Mode〉で第21回木村伊兵衛写真賞を受賞。また2021年には第37回写真の町東川賞国内作家賞を受賞するなど、日本を代表する写真家の一人として国内外で活躍している。

本展では、デビュー作〈バンコク、ハノイ 1982-1987〉、初期から震災後までライフワークとして撮り続けてきた〈Fukushima〉、最新作〈Silent Mode 2020〉までを展示し、瀬戸の「記憶の地図」を辿った。

また瀬戸は、自ら運営するギャラリー〈Place M〉で2000年から写真のワークショップ「夜の写真学校」を始め、多くの参加者と写真に向き合ってきた。本展関連事業として8月から「瀬戸正人写真学校 in 福島」を開校し、写真を撮ることとは違った、もう一つの瀬戸の写真との向き合い方を紹介し、体験してもらった。



展示風景



ギャラリートーク



映画上映会アフタートーク

出品リスト：

[No./タイトル/制作年/技法/サイズ(cm)/所蔵]

◆ Living Room, Tokyo [1989-1994]

- 1 手前：ノイナーさん（28）と同居している友人、バンコク出身
1989-1994 インクジェット・プリント 83×67 作家蔵
- 2 アキパ・サデキさん（26）イラン出身 " インクジェット・プリント 240×300 作家蔵
- 3 手前：フレッド・セルワギさん（30）、兄ジェームズ・ムレジさん（35）ウガンダ出身 " インクジェット・プリント 240×300 作家蔵
- 4 長尾真寿美さん（29）徳島県出身 " インクジェット・プリント 240×240 作家蔵
- 5 久保田公子さん（30）山形県出身 " インクジェット・プリント 240×300 作家蔵
- 6 林昌成さん（36）横浜市出身、妻孫さん（33）台湾出身 " インクジェット・プリント 240×326 作家蔵
- 7 鷹淳一さん（27）東京都出身 " インクジェット・プリント 240×348 作家蔵
- 8 加藤麻美さん（26）京都市出身 " インクジェット・プリント 240×300 作家蔵
- 9 岡崎イコクさん（25）熊本県出身 " インクジェット・プリント 240×218 作家蔵
- 10 ティルディーさん（23）日本名かおりと友人、バンコク出身 " インクジェット・プリント 240×300 作家蔵
- 11 右から：日本名せいこ（19）タイ・チェンライ出身、まゆみ（21）バンコク出身、みみ（19）、はるみ（25）、みどり（30）、もも（32） " インクジェット・プリント 240×300 作家蔵

◆ Picnic [1995-2003]

- 12 #1 1995-2003 インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 13 #2 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 14 #5 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 15 #6 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 16 #7 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 17 #8 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 18 #13 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 19 #14 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 20 #20 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 21 #21 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 22 #22 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵
- 23 #23 " インクジェット・プリント 100×160 作家蔵

作家蔵				
24 #24	"	インクジェット・プリント	100 × 160	
作家蔵				
◆Binran [2004-2007]				
25 #9		2004-2007	インクジェット・プリント	
240 × 400		作家蔵		
26 #1	"	発色現像方式印画	100 × 160	
Akio Nagasawa Gallery		蔵		
27 #2	"	発色現像方式印画	100 × 160	
Akio Nagasawa Gallery		蔵		
28 #3	"	発色現像方式印画	100 × 160	
Akio Nagasawa Gallery		蔵		
29 #5	"	発色現像方式印画	100 × 160	
Akio Nagasawa Gallery		蔵		
30 #8	"	インクジェット・プリント	100 × 160	
作家蔵				
31 #11	"	インクジェット・プリント	100 × 160	
作家蔵				
32 #13	"	インクジェット・プリント	100 × 160	
作家蔵				
33 #14	"	インクジェット・プリント	100 × 160	
作家蔵				
34 #16	"	インクジェット・プリント	100 × 160	
作家蔵				
35 #20	"	発色現像方式印画	50 × 64	Akio Nagasawa Gallery 蔵
◆Silent Mode 2020 [2019-2020]				
36 #1		2019-2020	インクジェット・プリント	83 × 67
作家蔵				
37 #2	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
38 #3	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
39 #4	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
40 #5	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
41 #6	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
42 #8	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
43 #9	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
44 #10	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
45 #11	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
46 #12	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
47 #13	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				

48 #14	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
49 #15	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
50 #16	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
51 #18	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
52 #19	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
53 #20	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
54 #21	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
55 #25	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
56 #26	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
57 #27	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
58 #28	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
59 #29	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
60 #30	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
61 #31	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
62 #32	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
63 #33	"	インクジェット・プリント	83 × 67	
作家蔵				
◆Bangkok, Hanoi [1982-1987]				
64		バンコク中央駅の裏通り。早朝。	1982-1987	ゼラチン・シルバー・プリント 36.1 × 36.5 東京都写真美術館蔵
65		けんかで死んだ若者。ニュー・ペップリー通りの路地裏。		" ゼラチン・シルバー・プリント 36.1 × 36.5 東京都写真美術館蔵
66		ハイウェイの事故現場。ラクシー地区。		" ゼラチン・シルバー・プリント 36.1 × 36.5 東京都写真美術館蔵
67		乗り合い船を待つ人々。チャオプラヤー川。		" ゼラチン・シルバー・プリント 36.1 × 36.5 東京都写真美術館蔵
68		チャオプラヤー川で小魚をとる人。		" ゼラチン・シルバー・プリント 36.1 × 36.5 東京都写真美術館蔵
69		ヤワラート市場で働く人々。		" ゼラチン・シルバー・プリント 36.1 × 36.5 東京都写真美術館蔵
70		夕方のラッシュ時。パトナム市場近くの踏切。		" ゼラチン・シルバー・プリント 36.1 × 36.5 東京都写真美術館蔵
71		踏切事故で停車する電車の乗客。		" ゼラチン・シルバー・プリント 36.1 × 36.5 東京都写真美術館蔵

- 72 バンコク近郊のナコンパトムにて。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 73 チャオプラヤー川の渡し船。朝夕は通勤の人々で込み合う。
// ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 74 ラマ1世通りとパタヤイ通りの交差点付近。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 75 ナイトクラブのダンサー。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 76 トンブリ地区（チャオプラヤー川の西側）のウォンウェンヤイ駅のバス停。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 77 裏の林で捕まえたフクロウ。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 78 キエム、アーン、ティエンの3家族と母。ハノイのクアンバディン地区。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 79 ハノイのホアンキエン地区。ドンスアン市場に通じるメインストリート。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 80 キエム家の隣人。テトの日。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 81 叔母のトオさんとその夫のティエンさん。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 82 テトの飾りつけの桃の花を買いに来た女性。ハノイで一番大きなドンスアン市場。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 83 叔母のミエンさんとその夫のキエムさん。自宅の居間。額の中が祖父。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 84 伯母ミエン家の隣家の娘。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 85 浮草をとる少女。ハノイ市のはずれにある西湖のほとり。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 86 祖父ハットの墓参り。ナムディン地区。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 87 キエム家の向かいの家の娘。井戸まで水をくみに行くのが日課。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 88 ファンティ家の一族と母。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- 89 キエム、ティエン、カイン、ジャン、ルーイの5人兄弟。 // ゼラチン・シルバー・プリント 36.1×36.5 東京都写真美術館蔵
- ◆Fukushima [1973-2016]
- 90 伊達郡国見町 2001 インクジェット・プリント 36.5×55 作家蔵
- 91 伊達郡国見町 2001 インクジェット・プリント 36.5×55 作家蔵
- 92 伊達市梁川町 2010 インクジェット・プリント 36.5×55 作家蔵
- 93 田島町 会津 1990 インクジェット・プリント 36.5×55 作家蔵
- 94 国見町 1978 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.7 福島県立美術館蔵
- 95 梁川町 1979 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.7 福島県立美術館蔵
- 96 梁川町 1982 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.7 福島県立美術館蔵
- 97 吾妻小富士 1985 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.7 福島県立美術館蔵
- 98 国見町 1987 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.7 福島県立美術館蔵
- 99 二本松市 1989 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.7 福島県立美術館蔵
- 100 保原町 2011以前 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.7 福島県立美術館蔵
- 101 梁川町 2000 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.7 福島県立美術館蔵
- 102 五色沼 会津 2012 ゼラチン・シルバー・プリント 69.6×93 福島県立美術館蔵
- 103 五色沼 会津 2012 ゼラチン・シルバー・プリント 69.6×93 福島県立美術館蔵
- 104 伊達市梁川町 2013 インクジェット・プリント 101×136 東京都写真美術館蔵
- 105 芦ノ牧温泉 会津 2013 インクジェット・プリント 101×136 東京都写真美術館蔵
- 106 五色沼 会津 2013 インクジェット・プリント 101×136 東京都写真美術館蔵
- 107 伊達市保原町 2013 インクジェット・プリント 101×136 東京都写真美術館蔵
- 108 南相馬市 2013 インクジェット・プリント 101×136 東京都写真美術館蔵
- 109 伊達市梁川町 2013 インクジェット・プリント 101×136 東京都写真美術館蔵
- 110 会津若松市 2013 インクジェット・プリント 101×136 東京都写真美術館蔵
- 111 田島町 会津 2013 インクジェット・プリント 101×136 東京都写真美術館蔵
- 112 金山町 会津 2013 ゼラチン・シルバー・プリント 69.6×93 福島県立美術館蔵
- 113 田島町 会津 2011 ゼラチン・シルバー・プリント 69.6×93 福島県立美術館蔵
- 114 若郷湖 会津 2012 ゼラチン・シルバー・プリント 31.8×44 福島県立美術館蔵
- 115 湯野上 会津 2012 ゼラチン・シルバー・プリント 31.8×44 福島県立美術館蔵
- 116 東山ダム 会津 2012 ゼラチン・シルバー・プリント 31.9×43.9 福島県立美術館蔵
- 117 猪苗代湖畔 会津 2013 ゼラチン・シルバー・プリント 31.9×44 福島県立美術館蔵
- 118 会津坂下町 2014 ゼラチン・シルバー・プリント 31.9×44 福島県立美術館蔵
- 119 早戸 会津 2014 ゼラチン・シルバー・プリント

31.9 × 44	福島県立美術館蔵
120 湯野上 会津	2012 ゼラチン・シルバー・プリント
31.9 × 43.9	福島県立美術館蔵
121 川口 会津	2014 ゼラチン・シルバー・プリント
31.9 × 43.9	福島県立美術館蔵
122 秋元湖 会津	2015 インクジェット・プリント
101 × 136	作家蔵
123 猪苗代町 会津	2015 インクジェット・プリント
101 × 136	作家蔵
124 会津若松市	2015 インクジェット・プリント
101 × 136	作家蔵
125 猪苗代湖 郡山市湖南町	2013 インクジェット・プリン
ト 101 × 136	東京都写真美術館蔵

◆名前のない風景

セルフポートレート (1995年・PlaceM)	1995	インクジェ
ット・プリント 66 × 83.5	作家蔵	
I 娘・ひかる (5歳) の手	1997	インクジェ
ット 28.8 × 44.8	作家蔵	
II ドンムアン空港・タイ洪水 (2011年)	2011	インクジェ
ット・プリント 33.5 × 44.8	作家蔵	
III 石垣島 (1998年)	1998	インクジェ
ット 29.8 × 44.8	作家蔵	
IV 床に映る自分の影	2018	インクジェ
ット 44.8 × 29.8	作家蔵	
V 娘・ひかる (1歳)	1993	インクジェ
ット 44.8 × 30.4	作家蔵	
VI 高名な僧侶の蝸人形・バンコク	2012	インクジェ
ット・プリント 34.5 × 34.5	作家蔵	
VII 高名な僧侶の蝸人形・バンコク	2012	インクジェ
ット・プリント 34.5 × 34.5	作家蔵	
VIII 妻・ドアン	1987	インクジェ
ット 29.8 × 44.8	作家蔵	
IX 娘・ひかる (6歳)	1998	インクジェ
ット 29.8 × 44.8	作家蔵	
X 梁川町自宅 (1975年)	1975	インクジェ
ット 29.8 × 44.8	作家蔵	
XI ハノイの魚市場 (1984年)	1984	インクジェ
ット 29.8 × 44.8	作家蔵	
XII 福島県猪苗代町 (2015年)	2015	インクジェ
ット 30.8 × 44.8	作家蔵	
XIII 神奈川三浦市 (2015年)	2015	インクジェ
ット 33.6 × 44.8	作家蔵	

(4) 福島アートアニュアル 2022

かたち生まれるときー吾子可苗・黒沼 令



A4 チラシ

会期：令和4年2月8日(火)～3月6日(日) 開催日数 23日

分野：工芸、彫刻

展示数：35点

観覧料：一般・大学生 400(300)円、高校生 200(100)円、小・中・高校生 100(50)円 * ()内は20名以上の団体料金

観覧者数：1,496名

担当：白木ゆう美、宮武弘

主催：福島県立美術館

関連事業：

・出品作家によるギャラリートーク→中止

日時：令和4年2月11日(金) 14:00～15:00 企画展示室

・創作プログラム「お気に入りの絵を彫ろう 漆の沈金体験」→次年度に延期

講師：吾子可苗氏 (漆芸家)

日時：令和4年2月26日(土) 10:30～12:00、13:30～15:00
美術館実習室

概要：

福島県立美術館では開館以来、福島県出身・ゆかりの若手作家を紹介する事業を継続的に開催してきた。そこで2021年度より新たに、近年充実した創作活動を繰り返している若手作家を継続的に紹介するシリーズ企画「福島アートアニュアル」を立ち上げることとなった。

第1回となる今回は漆芸家の吾子可苗(1980年 北海道生まれ、会津若松市在住)、彫刻家の黒沼令(1978年 岩手県生まれ、郡山市在住)の2名を取り上げた。漆を用いて植物の生命力や神秘性を表現する吾子。木材を複雑に組み合わせ、静かな空気感をまとった人の姿を表す黒沼。それぞれの“かたち”が生まれるとき、彼らはどのような想いで創作に向かっているのだろうか。震災を経て、コロナ禍にある現代に生きる彼らの創作活動の一端を紹介した。



展示風景

出品リスト：

[No./作家名/作品名/制作年/材質技法/サイズ (cm)]

1	吾子可苗	libido	2012	漆、和紙、木、 金粉、銀粉、白蝶貝、金属	H85 × W12 × D9
2	吾子可苗	libido	2013	漆、和紙、麻布、 木、金粉、白蝶貝	H134 × W34 × D34
3	吾子可苗	cocoon	2014	漆、和紙、麻布、 木、金粉、錫粉	H100 × W40 × D34
4	吾子可苗	cocoon-Vanda-	2015	漆、和紙、麻布、 木、金粉、錫粉、金属、貝	H125 × W26 × D30
5	吾子可苗	胞衣(えな) -立葵-	2015	漆、和紙、麻布、 木、金粉	H104 × W18 × D18
6	吾子可苗	matrix-Cattleya-	2017	漆、和紙、麻布、 木、金粉、錫粉	H73 × W38 × D35
7	吾子可苗	Cocoon-Paphiopedilum-	2019	漆、 和紙、麻布、木、金粉、ステンレス粉、玉虫貝	H78 × W25

× D24

8	吾子可苗	Lily	2021	漆、和紙、麻布、 木、金粉、錫粉、夜光貝	H53 × W21 × D21
9	吾子可苗	宝石箱 立葵	2021	漆、木、金粉、 京都オパール、夜光貝、卵殻	H6.7 × W27.2 × D11.2
10	吾子可苗	宝石箱 蝦夷立金花(えぞのりゅうぎんか)	2021	漆、木、金粉、京都オパール	H6.3 × W24.5 × D12.5
11	吾子可苗	金彩螺鈿漆杯	2021	漆、木、金粉、 玉虫貝	H8 × W10 × D10
12	吾子可苗	香合 鬼罌粟(おにげし)	2021	漆、 木、金粉、銀	H2.5 × W7.5 × D7.5
13	吾子可苗	香炉 樟蚕(くすさん)	2021	漆、 木、金粉、銀粉、銀	H11 × W11.5 × D11.5
14	吾子可苗	合子 木蓮	2021	漆、和紙、麻布、 木、金粉、錫粉、金属	H28 × W35 × D24
15	吾子可苗	合子 宿木	2021	漆、和紙、麻布、 木、金粉、貝、金属	H36 × W32 × D13
16	吾子可苗	合子 菱	2015	漆、和紙、木、 金粉、貝	H10 × W8 × D5
17	吾子可苗	合子 檳	2015	漆、木、金粉	H10 × W4 × D4
18	吾子可苗	合子 椿の実	2015	漆、木、金粉	H5 × W7 × D7
19	吾子可苗	Paphiopedilum	2010	漆、和紙、麻布、 木、金粉、錫粉	H77 × W20 × D18.5
20	吾子可苗	Paphiopedilum	2015	漆、和紙、麻布、 木、金粉、錫粉	H86 × W10 × D12.5
21	吾子可苗	Paphiopedilum	2021	漆、和紙、麻布、 木、金粉、錫粉	H74 × W15 × D8.5
22	黒沼 令	画家 - I	2020	樺・彩色	H75 × W25 × D30
23	黒沼 令	哲学者	2020	樺・彩色	H70 × W20 × D30
24	黒沼 令	数学者	2019	樺・彩色	H60 × W20 × D25
25	黒沼 令	刹那	2019	樺、楠・彩色	H200 × W100 × D100
26	黒沼 令	漂う人	2018	樺、桂、水木・ 彩色	H220 × W120 × D60
27	黒沼 令	嘆息	2015	樺、桂・彩色	H230 × W60 × D40
28	黒沼 令	静思	2016	樺、桂・彩色	H170 × W50 × D35
29	黒沼 令	うれう	2015	桧・彩色	H160 × W50 × D40
30	黒沼 令	すます	2014	桧・彩色	H160 × W50 × D40
31	黒沼 令	呟く人	2010	桂、エゾ松、樺・ 彩色	H170 × W50 × D50
32	黒沼 令	潜心	2015	桂・彩色	H160 × W80 × D100
33	黒沼 令	画家 - III	2022	山桜・彩色	H215 × W80 × D50
34	黒沼 令	画家 - II	2021	樺・彩色	H65 × W20 × D30
35	黒沼 令	小説家	2022	樺・彩色	H75 × W30 × D40

(5) 写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2 & どうぶつ家族



A3 チラシ

会期：令和4年3月19日(土)～5月22日(日) 開催日数 56日
(令和3年度 11日)

分野：写真

展示数：約 260 点

観覧料：一般・大学生 1,000(800) 円、高校生 600(500) 円、小

・中学生 400(300) 円 ※ () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：3,022 名 ※令和4年3月31日まで

担当：橋本恵里、大北孝、荒木康子

主催：福島県立美術館、福島民報社

後援：NHK 福島放送局

企画協力：株式会社 NHK エンタープライズ

企画制作：クレヴィス

関連事業：

・「自慢のネコちゃん写真大募集」

自慢のネコちゃんの写真を応募いただき、応募写真をすべてエントランスホールに展示した。

受付期間：令和4年3月19日(土)～4月30日(土)

受付期間：令和4年3月19日(土)～5月22日(日)

応募総数：414 枚

概要：

岩合光昭は、動物写真家としていまや世界中にファンを持つ、人気と実力を兼ね備えた作家である。近年話題となったシリーズに「岩合光昭の世界ネコ歩き2」(NHK BS で放映中) や「どうぶつ家族」がある。本展は、この2シリーズを同時に展示し、動物写真家・岩合光昭の世界を約 260 点の作品で味わう初めての展覧会。ネコたちの屈託のない立ち振る舞いや、動物たちの飾らない愛情に満ちた表情は、東日本大震災から 10 年以上を経て、あらためて命の尊さ、家族の絆、生命の循環といった普遍的問題を考える機会を提供してくれた。



展示風景

◆企画展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室内に置かれたアンケートに観覧者が任意に記入。数値は%。

展覧会名	佐藤玄々の彫刻 ／ 福島風景	ミネアポリス美術館	THE ドラえもん展	瀬戸正人	アートアニュアル
会期 (開催日数)	5/22～6/20 (26日間)	7/8～9/5 (52日間)	9/23～11/23 (54日間)	12/4～1/30 (41日間)	2/8～3/6 (23日間)
1-性別					
女性	55.4	59.4	62.1	52.2	38.1
男性	44.6	40.6	37.9	47.8	61.9
2-年齢					
10歳未満	7.8	3.0	13.1	0.2	1.9
10代	15.7	13.0	19.5	9.0	4.6
20代	2.0	6.5	19.5	6.7	6.5
30代	5.9	7.1	15.9	9.0	6.5
40代	3.9	13.6	13.7	11.9	13.0
50代	15.7	18.2	9.5	15.7	26.9
60代	27.5	22.6	5.9	26.9	27.8
70代	19.6	13.8	2.6	13.4	12.0
80歳以上	2.0	2.3	0.3	6.7	0.9
3-居住地					
福島市	69.2	46.3	40.0	50.0	47.9
中通り(福島市以外)	19.2	38.5	43.9	37.9	35.1
会津	1.9	8.1	6.7	4.8	12.8
浜通り	9.6	7.1	9.4	7.3	4.3
県外	8.8	10.2	12.4	12.7	16.8
4-職業					
勤めている	40.4	47.8	52.3	53.3	55.2
無職	17.5	14.6	4.4	21.5	13.3
学生	21.1	16.9	33.6	9.6	11.4
主婦・主夫	12.3	12.8	5.7	8.9	9.5
自営	7.0	7.4	3.9	6.7	9.5
その他	1.8	0.3	0.2	0	1.0
5-交通手段					
自家用車・バイク	70.2	83.6	81.3	75.7	75.2
公共交通機関	8.8	10.1	10.9	16.4	13.3
自転車・徒歩	21.1	5.8	7.0	7.9	9.7
タクシー	0	0.2	0.4	0	0.9
観光バス・レンタカー	0	0.3	0.4	0	0.9
その他	0	0	0.1	0	0
6-来館人数					
1人	68.4	33.1	14.5	57.0	58.0
2人	10.5	43.8	43.2	33.8	34.8
3～5人	14.0	22.3	39.3	9.2	7.1
6～9人	0	0.4	2.1	0	0
10人以上	7.0	0.3	0.9	0	0
7-展覧会を何で知ったか					
展覧会チラシ	15.9	12.6	9.7	19.1	19.3
ポスター	11.6	16.5	13.7	19.1	20.0
新聞	23.2	16.6	8.2	13.3	7.9
当館ホームページ	11.6	4.5	2.6	12.8	4.3
インターネット	4.3	6.2	9.0	5.3	5.0
人から聞いて	7.2	8.8	11.0	12.8	20.0

展覧会名	佐藤玄々の彫刻 ／ 福島風景	ミネアポリス美術館	THE ドラえもん展	瀬戸正人	アートアニュアル
会 期 (開催日数)	5/22～6/20 (26日間)	7/8～9/5 (52日間)	9/23～11/23 (54日間)	12/4～1/30 (41日間)	2/8～3/6 (23日間)
美術館ニュース	13.0	4.3	2.7	8.5	6.4
看板	2.9	1.4	0.9	0.5	2.9
テレビCM	1.4	14.9	24.3	1.6	2.9
雑誌・タウン誌	0	1.6	1.0	0.5	0.7
テレビ番組	2.9	7.1	8.2	2.7	1.4
ツイッター	1.4	0.8	3.3	1.1	0
フェイスブック	0	0.9	0.9	0.5	3.6
県政番組・広報誌等	2.9	1.6	0.8	1.1	0
ラジオ	0	1.4	0.9	1.1	1.4
インスタグラム	0	0.3	2.8	0	1.4
その他	1.4	0.5	0.1	0	2.9
8- 展覧会の満足度					
大変良い	42.9	70.6	76.3	48.2	81.3
良い	41.1	25.4	19.5	37.4	17.0
普通	14.3	3.5	3.1	10.0	1.8
あまり良くない	1.8	0.6	0.8	3.6	0
悪い	0	0	0.4	0.7	0
9- 利用回数					
初めて	12.7	16.7	51.5	15.6	20.9
数年に1回	18.2	29.7	25.9	13.3	15.5
年に1～2回程度	32.7	38.0	16.0	27.4	24.5
年に3～5回程度	27.3	14.2	5.1	34.1	31.8
年に6～9回程度	9.1	1.4	0.9	8.9	6.4
年に10回以上	0	0.1	0.5	0.7	0.9
10- 展覧会以外の利用					
レストラン	20.0	34.9	27.1	26.4	20.6
庭園	20.0	24.4	28.4	19.8	17.6
講演会	14.0	11.6	10.1	16.0	15.7
ギャラリートーク	16.0	10.3	7.2	13.2	8.8
鑑賞講座	20.0	7.6	17.9	11.3	13.7
創作プログラム	6.0	7.4	5.6	6.6	14.7
コンサート	4.0	3.6	3.6	6.6	8.8
その他	0	0.2	0.2	0	0
11- 今後見たい展覧会のジャンル					
日本画	36.2	28.6	13.8	19.3	12.1
海外の美術	12.8	33.1	23.5	14.8	22.7
工芸	12.8	4.8	4.9	4.5	9.1
彫刻	2.1	6.4	3.8	4.5	13.6
日本の洋画	6.4	4.0	4.2	5.7	9.1
写真	14.9	7.8	19.7	25.0	13.6
版画	4.3	4.8	1.5	3.4	4.5
デザイン	8.5	5.6	17.8	10.2	9.1
書	0	3.0	2.6	8.0	1.5
その他	2.1	2.0	8.3	4.5	4.5

美術館観覧者数一覧表

令和3年度観覧者数一覧

令和4年3月31日現在(単位:人)

展覧会名	開催期間	個 人						有 体 団 体						料 外		観覧者総計			
		高校生		小中学生		小 計		高校生		小中学生		小 計		前売券等	一般・大学生		年間観覧券	有料合計	無料・招待等
		一般・大学生	小中学生	一般・大学生	小中学生	一般・大学生	小中学生	一般・大学生	小中学生	一般・大学生	小中学生								
第1期～第3期 企画観覧券で常設展を鑑賞	245日間 通年	2,710		2,710	54	54	2,710	54	54	54	1,142	1,142	1,142	3,906	3,021	6,927			
常 設 展	通年																		
免除者(100/100)学校教育活動	通年														大学	0			
免除者(100/100)学校引継者	通年															75			
免除者(50/100)県又は市町村主催	通年															56			
常設無料入館(こどもの日)	5月5日															0			
"(県民の日)	8月21日															189			
"(敬老の日)	9月20日															92			
"(文化の日)	11月3日															428			
小中高校生無料入館	通年															2,332			
"	"															804			
"	"															908			
"	"															0			
小 計		2,710	0	2,710	108	108	2,710	0	0	108	0	1,142	3,960	24,129	28,089				
企 画 展																			
1 ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展	7/8～9/5 52日間	16,608	543	18,434	128	135	18,434	135	3	266	4,106	1,256	24,107	3,299	27,406				
2 THE ドラえもん展 FUKUSHIMA2021	9/23～11/23 54日間	29,682	1,486	35,278	174	374	35,278	374	284	832	9,040	1,009	46,231	14,440	60,671				
3 瀬戸正人 記憶の地図	12/4～1/30 41日間	920	17	960			960			0		342	1,314	449	1,763				
4 福島アートのアニュアル2022	2/8～3/6 23日間	767	7	802		40	802	40		40		224	1,072	424	1,496				
5 写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2 & どうぶつ家族	3/19～3/31 11日間	2,026	80	2,291	40	6	2,291	1	6	47		202	2,548	474	3,022				
小 計		50,003	2,133	57,765	342	550	57,765	550	293	1,185	13,146	3,033	75,272	19,086	94,358				
そ の 他																			
年間快便入館者数															554	554			
教育普及事業、講演会、コンサート、シンポジウム、芸術鑑賞講座、博物館実習参加者、内覧会、など															619	619			
年集展示「佐藤玄々(朝山の彫刻/福島の作家・福島の風景)															1,721	1,721			
「瀬戸正人写真展」福島県															61	61			
学校連携共同ワークショップ参加作品展															870	870			
小 計															3,825	3,825			
合 計		52,713	2,133	60,475	450	550	60,475	550	293	1,293	13,146	4,175	79,232	47,040	126,272				

※ミネアポリス展は、次のように読み替えます。「一般・大学生」→「一般」、「高校生」→「学生」、「小中学生」→「小中高」
※ドラえもん展は、次のように読み替えます。「高校生」→「中・高校生」、「小中学生」→「小学生」

第4節 調査研究事業

1 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

(1) 調査活動

令和3年度は県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収集作家（亜欧堂田善、吉井忠ら収集作家、吾子可苗、黒沼令ら若手作家、李禹煥、北川健司ら現代版画家など）の調査を重点的に行った。

(2) 研究紀要

福島県立美術館研究紀要第7号を発行した。

- ・B5版79ページ、発行部数600部
- ・執筆者
堀 宜雄「資料紹介：山内神斧関連資料」

第5節 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張実技講座を行っている。

1 館内解説

当館では以下のような館内解説を行っている。

(1) 団体解説

当館では、解説を予め申し込んだ学校や公民館などの団体に対し、美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和3年度の団体総数は122団体3,720名、そのうち解説を行ったのは71団体2,586名である。

(2) 質問電話

展示室の各所に「質問電話」を設置し、展示品や美術全般についての観覧者からの質問に学芸員が直接応答するユニークなホットライン・サービスを行っている。

(3) 解説シート

常設展示室に展示中の作家・作品の解説シートを設置している。

2 鑑賞講座

芸術鑑賞講座「名画との対話」

講師：早川博明氏（前館長） 会場：美術館講義室

第1回「レオナルド・ダ・ヴィンチと《モナ・リザ》」

日時：6月12日(土) 10:30～12:00 参加者数：22名

第2回「ジョルジョーネと《ラ・テンペスタ(嵐)》」

日時：8月14日(土) 10:30～12:00 参加者数：16名

第3回「ティツィアーノと《聖愛と俗愛》」

日時：10月9日(土) 10:30～12:00 参加者数：15名

第4回「カラヴァッジョと《聖マタイ伝と連作》」

日時：12月11日(土) 10:30～12:00 参加者数：16名

3 創作プログラム

広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じた各種プログラムを実施している。

①おさんぽ美術館—マップをつくろう！

日時：令和3年5月23日(日) 13:30～15:00

→6月20日(日)へ延期開催

講師：大北 孝（主任学芸員）、白木ゆう美（副主任学芸員）

会場：美術館実習室、庭園など 参加者数：7名



②カラフル木っ端でカタチをつくろう

日時：令和3年6月6日(日) 13:30～15:00

講師：佐野美里氏（彫刻家）

会場：美術館エントランスホール 参加者数：18名



③水墨画体験

日時：令和3年7月31日(土)、8月1日(日) 各日 10:00～16:00

講師：久保木桂子氏（美術家）

会場：美術館実習室 参加者数：各8名



④墨であそぶ・墨でえがく

日時：令和3年8月7日(土) 10:30～15:00

講師：久保木桂子氏（美術家）

会場：美術館実習室 参加者数：8名



⑤瀬戸正人写真学校 in 福島

日時：令和3年8月22日(日)、9月19日(日)、10月24日(日)、11月21日(日)、12月12日(日)、12月26日(日) 毎回 13:30～16:00 ※9月19日(日)は中止

講師：瀬戸正人氏（写真家）

会場：美術館講堂、企画展示室ほか 参加者数：各40名



⑥窓に描くクリスマス

日時：令和3年12月18日(土) 10:00～15:00

講師：小原風子氏（画家、絵本作家）

会場：美術館実習室、庭園など 参加者数：17名



⑦お気に入りの絵を彫ろう 漆の沈金体験 →次年度に延期

日時：令和4年2月26日(土) ① 10:30～12:00 ② 13:30～15:00

講師：吾子可苗氏（漆芸家）

会場：美術館実習室

4 美術館・学校教育連携事業

(1) 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より開催する連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

令和3年度は、小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて10校（参加者延べ143名）で開催した。ワークショップで制作した作品は令和4年2月8日（火）～27日（日）の期間、企画展示室Bにおいて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。詳細は以下のとおり。

① 建築廃材で小さなまちをつくろうー木製ブックスタンド制作ー

講師：門馬美喜氏（アーティスト）

内容：福島県の復興に使われた様々なかたちの建築廃材を自由に組み合わせて、ブックスタンドをつくるワークショップ。

開催校、開催日、人数：

県立相馬高等学校（美術部）11/7 12名



② 古紙を使って絵を描いてみよう！

講師：宮嶋結香氏（画家）

内容：紙袋や包装紙など一度役目を終えた紙を破き、断面やシワや入っている模様からイメージを膨らませて自由に絵を描くワークショップ。

開催校、開催日、人数：

田村市立大越小学校（6年生）	11/17	22名
田村市立要田小学校（5・6年生）	11/17	16名
南相馬市立太田小学校（5・6年生）	11/18	9名
二本松市立渋川小学校（4年生）	11/19	12名
須賀川市立小塩江中学校（全校生）	11/19	16名

郡山市立日和田中学校（美術部）	11/20	7名
会津坂下町立坂下中学校（文化部）	11/27	19名
会津若松市立第二中学校（美術部）	11/27	12名



③ 好きなもので友達の顔を描いてみよう！

講師：大北 孝（主任学芸員）

内容：自分の知っている友達の雰囲気をもとに、教えてもらった好きな音や物から想像して、いろいろな画材を使って友達の顔を描くワークショップ。

開催校、開催日、人数：

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）10/5 5名
 福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）10/7 6名
 福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）10/26 7名

(2) 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

令和3年度は、前期講座（教育センター）が新型コロナウイルス感染拡大のため中止となり、後期講座（美術館）のみ開催した。

日時：後期 令和3年11月2日(火) 10:00～15:45

講師：梅野史代（教育センター指導主事）、大北 孝（主任学芸員）

参加者：小学校教諭2名、中学校教諭3名、
 高等学校教諭3名、特別支援学校教諭3名 合計11名

(3) 美術館への年賀状展

県内の小中高校生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

会期：令和4年1月12日(火)～30日(日)

応募総数：171通 観覧者数：554名

(4) 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時：令和3年8月24日(火)～29日(日)

受講者数：3名

(5) 福島県小学校教育研究会研修

福島県小学校教育研究会図画工作科研究部会からの要請により、例年、教員研修の受け入れを行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

5 県立図書館との連携事業

(1) 「アートな おはなしかい」

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみきかせ」と美術館の「鑑賞と工作のワークショップ」を連携させた「アートな おはなしかい」を、平成18年度から継続実施している。

日時：令和3年7月24日(日) 14:00～15:30

会場：図書館、美術館

参加者数：6名

第6節 その他の事業

1 施設・設備の整備

令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により、建物や設備、敷地内舗装等に被害が生じたため、令和3年度は、通常の施設・設備の維持管理に加えて、被災した設備等の復旧に取り組んだ。令和3年度における災害復旧費総額は17,227千円であった。

2 動画配信等による情報発信

令和2年4月30日に動画共有サービスYouTubeに公式チャンネルを開設し、展覧会の見どころ等を紹介する動画配信を始めた。令和3年度における配信状況は以下のとおり。

- ・特集展示「佐藤玄々（朝山）の彫刻」「福島の作家・福島の風景」のご案内

- ・福島県立美術館企画展「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展」予告、「同」開催中

- ・福島県立美術館常設展示のご案内（2021年度第1期）

- ・福島県立美術館企画展「福島アートアニュアル2022」

3 館外連携

県内外の関係機関等と連携・協力して、芸術文化活動の質の向上、県民の美術に対する知識及び教養の向上、地域の活性化に取り組んでいる。

令和3年度においても、関係団体との連携事業を実施するとともに、他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

(1) 友の会、協力会との連携事業

例年、友の会が実施している企画展開催時のボランティアやアートチャリティーバザー、実技講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度は実施を見合わせた。

関係団体と連携して実施した活動は、下記のとおりである。

① 「アートミーツクッキー」

NPO法人福島県立美術館協力会との共催。「見る」「書く」「描く」「食べる」と様々な感覚を取り入れた、子供も大人も参加できるアクティブ型の美術鑑賞を楽しんだ。

日時：令和3年10月30日(土) 9:30～14:30

※緊急事態宣言のため、当初9月20日(月)予定を延期

ディレクション：フライデー・スクリーン

会場：美術館庭園、常設展示室

参加者数：約200名

② ミュージアム・コンサート「春を呼ぶピアノとソプラノの歌声」

NPO法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催。

日時：令和4年2月20日(日) →中止

③触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ「黒沼令さんの木彫を鑑賞する」

NPO 法人福島県立美術館協力会との共催。企画展「福島アートアニュアル 2022」にあわせ、出品作家・黒沼令氏とともに、見える人、見えない人一緒に作品を鑑賞するワークショップ。

日時：令和4年3月5日(土) →中止

① 10:30～12:00 ② 14:00～15:30

④アートカード『ぼけっとアート』貸出

平成29年4月より当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸出を行っている。

令和3年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、146か所、774セットである。

(2) 他機関への協力

①委員等

- ・福島市文化振興条例検討委員会委員（長根由里子館長）
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事（長根由里子館長、堀宜雄副館長心得兼学芸課長）
- ・福島県総合美術展覧会運営委員（堀宜雄副館長心得兼学芸課長）
- ・第75回福島県総合美術展覧会大賞選考委員（堀宜雄副館長心得兼学芸課長）
- ・白河市名誉市民選考委員会委員（堀宜雄副館長心得兼学芸課長）
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員（増淵鏡子専門学芸員）
- ・相馬市史調査編さん委員（増淵鏡子専門学芸員）
- ・福島市写真美術館運営委員会委員（紺野朋子主任学芸員）
- ・西会津国際芸術村公募展審査員（坂本篤史主任学芸員）
- ・猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員（坂本篤史主任学芸員）
- ・矢祭もったいない図書館手づくり絵本コンクール第二次審査選考委員（橋本恵里学芸員）
- ・須賀川市文化財保護審議会委員（伊藤匡専門員）
- ・郡山市立美術館協議会委員（荒木康子専門員）
- ・いわき市立美術館収集評価委員（荒木康子専門員）
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員（荒木康子専門員）

②講師、寄稿、発表、受賞等

- ・福島大学行政政策学類「博物館経営論」講師
令和3年4月8日(木)～9月30日(木) 全15回(荒木康子専門員)
- ・公益財団法人大和文華館シンポジウム「酒の美術—日本・中国から西洋まで—」講師 令和3年10月10日(日) (坂本篤史主任学芸員)
- ・福島県立医科大学医学部「芸術と文化 博物館・美術館にみる芸術と文化」講師
 - ①「THE ドラえもん展」令和3年11月10日(木)(橋本恵里学芸員)
 - ②「企画展・常設展見学」令和3年11月13日(土) (橋本恵里学芸員)
 - ③「福島県立美術館のコレクション」令和3年11月17日(木)(荒木康子専門員)

- ・福島県立医科大学保健科学部「福島県を知る」講師 令和3年8月10日(木)(堀宜雄副館長心得兼学芸課長、増淵鏡子専門学芸員、橋本恵里学芸員)
- ・西会津国際芸術村「展示実習」講師 令和3年6月4日(金) (坂本篤史主任学芸員)

◆ 関係法規

A 福島県立美術館条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の美術に対する知識及び教養の向上を図るため、福島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 美術館は、福島市森合字西養山1番地に置く。

(業務)

第3条 美術館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 美術館及び美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 二 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 三 美術に関する講演会、講習会、映画会、研究会等を開催すること。
- 四 前3号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 美術館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 三 展示品の横写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 四 所定の場所以外において、喫煙および飲食を行わないこと。
- 五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項。

(平11条例92・一部改正)

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものに対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 一 前条の規定に違反した者。
- 二 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、または汚損するおそれのある者。
- 三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者。

(平11条例92・追加)

(職員)

第9条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(平11条例92・旧第8条繰上)

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

(平11条例92・旧第9条繰上)

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

(平9条例53・平15条例52・平25条例118・平28条例52・平31条例47・一部改正)

区 分	普通観覧料の額 (一人当たり)		特別観覧料の額	年間観覧料の額 (同一人が有効期間内に 利用する場合)
	個 人	団 体		
一般(大学生を含む。)	280円	220円	その都度知事が定める額	3,600円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	2,160円の範囲内で知事が定める額
中学生、小学生及びこれらに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	1,440円の範囲内で知事が定める額

備考

1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは特別の企画による展示品を観覧する場合(常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。)の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。

2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

附 則 (平成9年条例第53号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 (平成11年条例第92号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年条例第52号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年条例第118号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年条例第52号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平成31年条例第47号)

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

B 福島県立美術館運営協議会条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立美術館(以下「美術館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員会の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(平24条例42・一部改正)

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、

会長が協議会に諮って定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

附則（平成24年条例第42号）

- この条例は、平成24年4月1日から施行する。
- この条例の施行の際現に改正前の福島県立美術館運営協議会条例第三条第一項の規定により任命されている福島県立美術館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立美術館運営協議会条例第三条第一項の規定により任命された福島県立美術館運営協議会の委員とみなす。

C 福島県立美術館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

福島県立美術館条例（昭和59年福島県条例第33号）第5条、第6条ただし書及び別表の規定による知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

D 福島県立美術館条例施行規則

（休館日）

第1条 福島県立美術館（以下「美術館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。
- 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- 1月1日から同月4日まで。
- 12月28日から同月31日まで。

2 美術館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

（昭63教委規則8・一部改正）

（開館時間）

第2条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

（観覧手続）

第3条 館長は、福島県立美術館条例（昭和59年福島県条例第33号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（第1号様式）を交付するものとする。

（平15教委規則2・一部改正）

（年間観覧者に係る入館手続）

第3条の2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（第1号様式の2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券の交付の日から起算して1年とする。

- 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。
- 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

（平15教委規則2・追加、平19教委規則14・一部改正）

（観覧料の免除及びその手続）

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
--------------	-------

一 大学生、（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
二 県又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の百分の五十に相当する額（引率者にあつては全額）
三 国民の祝日に関する法律第二条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
四 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
五 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める金額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（第2号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（第3号様式）を交付するものとする。

（昭60教委規則3・平4教委規則15・平7教委規則14・平8教委規則15・平8教委規則19・平12教委規則15・平14教委規則13・平15教委規則2・一部改正）

（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき（観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。）全額
- その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（第4号様式）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（平15教委規則2・一部改正）

（美術品等の特別利用）

第6条 美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（平12教委規則15・旧第7条繰上）

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

（平12教委規則15・旧第8条繰上）

附則

1 この規則は、昭和五十九年四月一日から施行する。

（令二教委規則七・旧附則・一部改正）

2 第三条の二第一項の有効期間中に工事により休館する期間がある場合は、その期間を一年に加算した期間を同項の有効期間とする。

（令二教委規則七・追加）

第1号様式（第3条関係）

観覧券 （観覧者の区分） （金額） 福島県立美術館	観覧券 （観覧者の区分） （金額） 福島県立美術館
------------------------------------	------------------------------------

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

第1号様式の2 (第3条の2関係)
(平15教委規則2・追加)

(表)

年間観覧券
福島県立美術館

(裏)

(交付番号)	(観覧者の区分)
(有効期間)	
御利用に際して	
1 福島県立美術館が主催する展覧会のみ有効です。	
2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。	
3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。	
(氏名)	
(学校名) (学年)	
福島県立美術館	

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

第2号様式 (第4条関係)
(平3教委規則13・一部改正)

第2号様式(第4条関係)

年 月 日

福島県立美術館長

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
申請者 印

観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日 時 分から 時 分まで			
観覧者の種別及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職、氏名	氏名			
連絡先及び電話番号	電話()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円※	※	円※		
第 年 月 日				
上記のとおり承認してほしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

第3号様式 (第4条関係)
(平3教委規則13・一部改正)

第4号様式(第5条関係)

年 月 日

福島県立美術館長

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
申請者 印

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称			
観覧料の納入月日	年 月 日		
既納観覧料の区分及び金額	区	分	人
	数	金	額
		人	円
合計			
返還を申請する理由			
連絡先及び電話番号	電話()		
観覧料返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円※	※	円※	
上記のとおり返還してほしい。			
館長	副館長	総務課長	主任
受付月日	・	・	決裁月日

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

第4号様式 (第5条関係)
(平3教委規則13・一部改正)

第3号様式(第4条関係)

第 号
年 月 日

様

福島県立美術館長 印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日 時 分から 時 分まで			
観覧者の種別及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円				

- 附則 (昭和60年教委規則第3号)
この規則は、昭和60年4月1日から施行する。
- 附則 (昭和63年教委規則第8号)
この規則は、昭和63年4月1日から施行する。
- 附則 (平成3年教委規則第13号)
1 この規則は、交付の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に作成されている改正前の規則に定める様式による用紙は、当分の間、使用することができる。

附 則（平成4年教委規則第15号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年教委規則第14号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第15号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第19号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年教委規則第15号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第13号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年教委規則第2号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成19年教委規則第14号）

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第7号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年教委規則第15号）

（施行期日）

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正前の福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則、学校教育法施行細則、福島県立美術館条例施行規則、福島県立博物館条例施行規則、福島県文化財保護条例施行規則、福島県立高等学校の通学区域に関する規則、福島県立高等学校学則、福島県奨学金貸与条例施行規則、福島県立学校の管理運営に関する規則、福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則、福島県立中学校学則及び福島県立特別支援学校学則（以下これらを「改正前の規則等」という。）に規定する様式については、この規則の規定による改正後の福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則、学校教育法施行細則、福島県立美術館条例施行規則、福島県立博物館条例施行規則、福島県文化財保護条例施行規則、福島県立高等学校の通学区域に関する規則、福島県立高等学校学則、福島県奨学金貸与条例施行規則、福島県立学校の管理運営に関する規則、福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則、福島県立中学校学則及び福島県立特別支援学校学則（以下これらを「改正後の規則等」という。）に規定する様式にかかわらず、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

3 この規則の施行の際現に改正前の規則等に基づき提出、通知又は作成されている届出書等の書面は、それぞれ改正後の規則等に基づき提出、通知又は作成されている届出書等の書面とみなす。

E 福島県立美術館組織規則

（この規則の目的）

第1条 この規則は、福島県立美術館（以下「美術館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（課）

第2条 美術館に次の課を置く。

総務課

学芸課

（事務分掌）

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 一 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 二 公印の管理に関すること。
- 三 人事に関すること。

四 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。

五 予算の編成、経理及び執行に関すること。

六 物品の調達及び処分に関すること。

七 財産の管理に関すること。

八 観覧料の徴収に関すること。

九 福島県立美術館運営協議会に関すること。

十 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

一 美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。

二 美術に関する調査及び研究に関すること。

三 美術に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

四 美術に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。

五 美術に関する相談、情報提供その他美術教育の普及に関すること。

六 国立美術館、公立美術館その他の教育機関及び美術関係団体との連絡提携に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること。

（館長）

第4条 美術館に館長を置く。

2 館長は、上司の命を受け、美術館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

（副館長）

第5条 美術館に副館長を置く。

2 副館長は、館長を補佐し、美術館の事務を整理する。

（課長）

第6条 美術館の課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

（平25教委規則11・一部改正）

（学芸員等）

第7条 美術館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。

3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。

4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。

5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。

6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

（主任主査その他の職）

第8条 美術館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主幹	上司の命を受け、特に指示された事務を掌理する。
事務長	上司の命を受け、副館長を補佐し、美術館の事務を処理する。
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理し、並びに担当する事務を取りまとめ、及び整理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

（平14教委規則18・平25教委規則8・令2教委規則5・一部改正）

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成 25 年教委規則第 8 号）

この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 25 年教委規則第 11 号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和 2 年教委規則第 5 号）

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

F 福島県立美術館収集評価委員会設置要綱

（設置）

第 1 条 福島県立美術館に収蔵する美術品及び資料（以下「美術品等」という。）の収集及び評価について審議するため、福島県立美術館収集評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第 2 条 委員会は 5 人以内の委員をもって構成し、委員は学識経験者のうちから福島県立美術館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

2 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

3 委員長は委員会を代表し会務を掌理する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（任期）

第 3 条 委員の任期は 2 年とする。但し、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第 4 条 委員会は、必要のつど館長が招集する。

2 委員会は、美術品等の収集及び評価について審議し、その結果を館長に報告するものとする。

3 委員会は、必要に応じ職員その他の者を出席させて意見を聴くことができる。

（庶務）

第 5 条 委員会の庶務は、福島県立美術館において処理する。

（その他）

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附則 この要綱は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

改正 昭和 59 年 4 月 1 日、昭和 61 年 4 月 1 日

G 福島県立美術館における美術品等の貸出し及び撮影等に関する取扱要領

1 趣旨

（1）この要領は、財産の交換、譲与、無償貸付け等に関する条例（昭和 39 年福島県条例第 22 号）第 7 条、福島県財務規則（昭和 39 年福島県規則第 17 号。以下「財務規則」という。）第 156 条、福島県立美術館条例（昭和 59 年福島県条例第 33 号）第 7 条及び福島県立美術館条例施行規則（昭和 59 年福島県教育委員会規則第 12 号）第 7 条の規定により、福島県立美術館（以下「館」という。）が所蔵し、又は寄託を受けている美術品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の貸出し及び撮影、画像使用（以下「撮影等」という。）に関する基準及び手続きを定めるものとする。

（2）美術品等が福島県美術品等取得基金（以下「基金」という。）所有のものであるときは、美術品等の貸出しの手続きは福島県立美術館長（以下「館長」という。）の依頼により基金管理者が行うものとするが、美術品等の貸出し及び撮影等の基準については、この要領を準用するものとする。

2 美術品等の貸出し

（1）貸出しの基準

ア 美術品等の貸出しは、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、その他館長が特に必要と認めたものに対して行うものとする。

イ 美術品等の貸出期間は、1 年を超えてはならない。

ウ 美術品等の利用目的及び管理上の理由から貸出しをすることが適当で

ないと認められる場合は、貸出しを行わないものとする。

エ 美術品等が寄託を受けているものである場合、寄託者から貸出の承認が得られない場合には、貸出しを行わないものとする。

（2）貸出しの手続き

ア 館長は、美術品等の貸出しをする場合には、貸出しを受けようとする者（以下「借受者」という。）から物品借受申請書（財務規則第 102 号様式。以下「申請書」という。）を提出させるものとする。ただし、借受者の利用目的が展覧会の展示である場合には、次の書類を提出させなければならない。

（ア）展覧会の趣旨及び企画内容を明記した書類

（イ）その他必要と認める書類

イ 館長は、借受者から申請書の提出を受けたときは、美術品等の利用目的、利用期間及び利用場所等について十分に検討を加え、貸出しの適否を審査するものとする。

ウ この要領 2 の（2）のア及びイの規定は、美術品等が基金所有のものである場合に準用する。

（3）貸出しの決定

ア 館長は、この要領 2 の（2）のイの審査の結果、美術品等の貸出しをすることが適当と認めるときは、物品貸付調書（財務規則第 102 号様式）により当該貸出しについて決裁するとともに、借受者に対して、貸出し承認の通知（様式第 1 号）をするものとする。

イ 美術品等が基金所有のものであるときは、当該美術品等の貸出しの決定及び借受者に対する貸出し承認の通知は、基金管理者が行うものとする。

ウ 美術品等の貸出しは、無料とする。

（4）貸出しの条件

美術品等の貸出しをする場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等は利用目的以外の用途に利用しないこと。

イ 美術品等の利用権を第三者に譲渡しないこと。

ウ 美術品等は常に善良な管理者の注意をもって管理保管すること。

エ 美術品等の棄損・亡失等が生じた場合は、速やかにその旨を館長に報告し、その指示により損害を賠償し、又はこれを原状に回復すること。

オ 美術品等の輸送、その他貸出しに要する経費は、借受者が負担すること。

カ 美術品等の搬出または搬入に際しては、借受者は責任者を立会させること。

キ その他必要と認めること。

ク この要領 2 の（4）のアからキまでの規定は、美術品等が基金所有のものである場合に準用する。

（5）美術品等の引渡し

ア 物品管理権者（館長）は、美術品等の貸出しを実行するときは、当該美術品等の現状を確認し、物品取扱員（福島県立美術館事務長。以下「事務長」という。）に対し、貸付物品払出（受入）通知書（財務規則第 102 号様式）により、その引渡しを指示するものとする。

イ 物品取扱員（事務長）は、物品管理権者（館長）から貸出し美術品等の引渡しの指示を受けたときは、借受者に対して当該美術品等の受領を証する書面と引換えに、これを引渡すものとする。

ウ 物品管理権者（館長）は、美術品等を引き渡したときは、物品管理簿（財務規則第 76 号様式）の摘要欄に貸し付けた旨を記録し整理するものとする。

エ 美術品等の引渡し場所は、原則として館とする。

（6）美術品等の引受け

この要領 2 の（5）のアからウまでの規定は、貸出しを行った美術品等が返納された場合の受入れの手続きについて準用する。この場合「美術品等の貸出しを実行」とあるのは「貸出しを行った美術品等を引受け」と、「引渡し」とあるのは「引受け」とそれぞれ読み替えるものとする。

3 美術品等の撮影

（1）撮影承認の基準

ア 美術品等の撮影は、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、出版社、その他館長が特に必要と認めたものに対して承認するものとする。

イ 撮影により美術品等に損傷を生ずるおそれがある場合や美術品等の管理上適当でないと思われる場合は、承認を行わないものとする。

ウ 美術品等が寄託を受けているものである場合、寄託者から撮影の承認

が得られない場合には、承認を行わないものとする。

(2) 撮影承認の手続き

ア 館長は、美術品等の撮影を承認する場合には、撮影を希望する者（以下「撮影者」という。）から美術品等撮影承認願（様式第2号。以下「撮影承認願」という。）を提出させるものとする。

イ 館長は、撮影者から撮影承認願の提出を受けたときは、撮影の目的、対象美術品等について十分に検討を加え、承認の適否を審査するものとする。

ウ 館長は、この要領3の(2)のイの審査の結果、美術品等の撮影を承認することが適当と認めるときは、撮影者に対して撮影承認の通知（様式第3号）をするものとする。

エ この要領2の(3)により貸出し承認の通知を受けた借受者が、図録作成等のため美術品等の撮影をする場合には、事前に館と協議の上承諾を得ることによって、撮影承認の手続きを省略できるものとする。

オ 美術品等の撮影は、無料とする。

(3) 撮影の条件

美術品等の撮影を承認する場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等の撮影は、館の職員の指示に従って行うこと。

イ 撮影により美術品等を損傷させないこと。

ウ 撮影した写真等は、承認を受けた目的以外に使用しないこと。

エ 撮影の目的が著作権法の適用を受けることとなる場合は、必要に応じ、あらかじめ著作権者の承認を得ること。

オ 撮影した写真を出版物に掲載した場合は、当該出版物を館に提出すること。

カ トリミングや文字重ねなど、無断で画像を改変しないこと。

キ 作品の芸術性を損なわないよう、十分に配慮すること。

ク 作者名・作品名・所蔵館名を必ず明記すること。

ケ 画像がデジタル・データの場合は、使用後速やかにデータを破棄すること。

コ Web等で利用する場合には、画像サイズおよび解像度は長辺800ピクセル、72dpi以下とし、さらに無断転用を防ぐ措置を講じること。

サ その他必要と認めること。

4 美術品等の画像使用

(1) 画像使用承認の基準

ア 美術品等の画像使用は、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、出版社、その他館長が特に必要と認められたものに対して承認するものとする。

イ 美術品等が寄託を受けているものである場合、寄託者から画像使用の承認が得られない場合には、承認を行わないものとする。

(2) 画像使用承認の手続き

ア 館長は、美術品等の画像使用を承認する場合には、画像使用を希望する者（以下「使用者」という。）から美術品等画像使用承認願（様式第4号。以下「画像使用承認願」という。）を提出させるものとする。

イ 館長は、使用者から承認願の提出を受けたときは、画像使用の目的、対象美術品等について十分に検討を加え、承認の適否を審査するものとする。

ウ 館長は、この要領4の(2)のイの審査の結果、美術品等の画像使用を承認することが適当と認めるときは、使用者に対して画像使用承認の通知（様式第5号）をするものとする。

エ この要領2の(3)により貸出し承認の通知を受けた借受者が、図録作成等のため美術品等の画像使用をする場合には、事前に館と協議の上承諾を得ることによって、画像使用承認の手続きを省略できるものとする。

オ 美術品等の画像使用は、無料とする。

(3) 画像使用の条件

美術品等の画像使用を承認する場合には、次の条件を付すものとする。

ア 画像は、承認を受けた目的以外に使用しないこと。

イ 画像使用の目的が著作権法の適用を受けることとなる場合は、必要に応じ、あらかじめ著作権者の承認を得ること。

ウ 承認を受けた画像を出版物に掲載した場合は、当該出版物を館に提出すること。

エ トリミングや文字重ねなど、無断で画像を改変しないこと。

オ 作品の芸術性を損なわないよう、十分に配慮すること。

カ 作者名・作品名・所蔵館名を必ず明記すること。

キ 万一貸与した画像を損傷・忘失した場合は、再撮影に係わる実費を請求することができるものとする。

ク 館所有の画像を複製して使用する場合は、当該複製版をすべて提出するものとする。

ケ 画像がデジタル・データの場合は、使用後速やかにデータを破棄すること。

コ Web等で利用する場合には、画像サイズおよび解像度は長辺800ピクセル、72dpi以下とし、さらに無断転用を防ぐ措置を講じること。

サ その他必要と認めること。

附則

この要領は、昭和60年2月9日より施行する。

(平成9年9福美第65号により一部改正)

この要領は、令和3年6月1日より施行する。

H 福島県立美術館美術作品等寄託要領

(趣旨)

1 この要領は、福島県立美術館（以下「館」という。）における美術作品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の寄託に関し、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申し出)

2 福島県立美術館長（以下「館長」という。）は、美術品等の所有者に依頼して寄託を受けようとする場合には、寄託同意書（別記様式第1号）によって所有者の同意を得なければならない。

(2) 館長の依頼によらないで美術品等の寄託をしようとする者は、寄託申込書（別記様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(受託)

3 館長は、所有者の同意、もしくは所有者からの申込みのあった美術品等の寄託が館の事業のため必要があると認めるときは、これを無償で受託することができる。

(受け入れ及び返還)

4 館長は、所有者から寄託された美術品等を受領したときは、所有者に対して受託証書（別記様式第3号）を交付するものとする。

(2) 所有者は、寄託した美術品等（以下「寄託品」という。）の返還を受けようとするときは、返還を受けようとする日の1ヶ月以上前に返還申請書（別記様式第4号）を館長に提出しなければならない。

(3) 館長は、この要領4の(2)により、所有者に対して寄託品の返還をしようとするときは、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。

(4) 寄託品の返還を受けようとする者が所有者の代理人であるときは、委任状その他これを証する書面を館長に提出しなければならない。

(寄託期限)

5 美術品等の寄託期間（以下「寄託期間」という。）は2年とする。ただし、特別な理由があるとき、館長はこの期間を短縮することができる。

(寄託期間の更新)

6 館長は、所有者の承諾を得て寄託期間を更新することができる。

(2) 寄託期間の経過後、所有者から寄託品の返還の請求がない場合は、寄託期間を更新したものとみなす。

(3) 館長は、この要領6の(1)及び(2)により寄託期間を更新したときは、所有者に対し更新した受託証書を交付するものとする。

(所有者の変更等)

7 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったとき、または所有者の氏名、名称もしくは住所等に変更があったときは、所有者（所有者が変更した場合は変更後の所有者）は、所有権の移転その他氏名、名称等の変更を証する書類を受託証書に添えて館長に提出し、受託証書の書き換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

8 所有者は、受託証書を忘失し、または著しく破損したときは、これらの

事実を証するに足る書類（破損の場合は、その受託証書）を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

（寄託品輸送経費等の負担）

9 所有者は寄託品の搬入または返還に要する経費等を負担するものとする。ただし、館長が特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

（寄託品の展示等）

10 館は、寄託品について、展示、研究及び撮影等を行い、その結果を公開することができる。

（2）館職員以外の者がこの要領10の（1）の行為をしようとするときは、「福島県立美術館における美術品等の貸出し及び写真撮影等に関する取扱要領」に定めるところにより、所定の手続きを経なければならない。

（寄託品の保存）

11 館長は、寄託品の保存管理及びその取扱いについては、館に所蔵する美術品等に準じて行う。

（2）館は、寄託品を忘失し、または損傷した場合は、その補償をするものとする。ただし、天災、その他不可抗力による場合は、この限りでない。

（その他）

12 この要領に定めるもののほか、美術品等の寄託に関して必要な事項は、館長が定める。

附則

この要領は、昭和60年4月1日より施行する。

この要領は、令和3年4月1日より施行する。

1 福島県立美術館共催等名義使用承認事務取扱要綱

（趣旨）

第1 この要綱は、福島県立美術館（以下「美術館」という。）が、美術館以外の各種団体が主催する教育・文化関係事業等について共催、協力、後援（以下「共催等」という。）する場合の基準及びその他必要な事項を定めるものとする。

（用語の定義）

第2 この要綱における用語の定義は、次のとおりとする。

1 共催

事業の企画及び運営に参画し、主催者と共同して責任を分担することをいう。

2 協力

事業の趣旨に賛同し、美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の貸出しを伴ってその開催に協力することをいう。

3 後援

事業の趣旨に賛同し、その開催を援助することをいう。

（共催等の使用名義）

第3 共催等について使用を承認する名義は、「福島県立美術館」とする。

（承認の基準）

第4 福島県立美術館長（以下「館長」という。）は、主催者から共催等の申請があったときは、次の各号に掲げる基準により審査のうえ、承認するものとする。

1 主催者

- （1）国若しくは地方公共団体又はこれらに準ずる団体
- （2）学校等の教育機関又はこれらの連合体
- （3）公益法人又はこれに準ずる団体
- （4）新聞、テレビ等の報道機関
- （5）その他、館長が適当と認めるもの

2 事業内容

（1）学校教育、社会教育及び文化（以下「教育等」という。）の普及・向上に寄与するもので、公益性のある事業であること。

（2）参加対象が県民一般に広く及ぶものであること。ただし、内容が特に優れ、本県の教育等の普及・向上に寄与するところが著しいと認められる事業については、この限りではない。

（3）専ら営利を目的としないこと。

（4）特定政党の政治活動又は特定の宗教的団体の宗教活動でないこと。

（5）公共の福祉に反しないこと。

（6）法令、規則等に違反しないこと。

3 その他

（1）主催者の存在が明確で、事業遂行能力が十分であると判断できるものであること。

（2）開催の場所は、公衆衛生及び災害防止について、十分な設備措置が講じられていること。

（承認の手続き）

第5 共催等を申請する者は、原則として開催日2カ月前までに、共催等承認申請書（第1号様式）を館長に提出すること。

1 館長は前項の申請書を受理したときは、速やかに承認の可否を文書（第2号様式）で通知するものとする。

2 福島県及び福島県教育委員会が主催する事業については、申請書の提出は不要とし、事業計画や内容・目的を明記した協議書の提出を求めるものとする。

3 特定非営利活動法人福島県立美術館協会及び福島県立美術館友の会が主催する事業については、事前に協議するものとし、申請書の提出は不要とする。

（添付書類）

第6 共催等承認申請書には、次の書類を添付するものとする。

- 1 主催者の存在及び基礎を明らかにする書類
- 2 役員その他事業関係者の住所及び役職名簿等を明らかにする書類
- 3 事業の目的及び計画を明らかにする書類（予算書を含む）

（承認の条件）

第7 共催等の承認にあたっては、次の条件を付するものとする。

- 1 美術館が共催等である旨を開催要項等に明記すること。
- 2 事業開催に当たり申請内容を変更しないこと。違反が認められた場合は、承認を取り消す場合がある。
- 3 申請内容に変更せざるを得ない事由が生じた場合には、速やかに届け出て、改めて承認を受けること。
- 4 事業終了後、1カ月以内に実施報告書（第3号様式）を提出すること。

（美術館内開催事業承認の条件）

第8 共催等により美術館内の施設で開催される事業の承認にあたっては、特に次の条件を付するものとする。

1 事業内容は、美術館の事業としてふさわしい次の内容のものであること。

- （1）企画展・常設展等、美術館展示に関連するもの。
- （2）講演・講座・イベント等、美術館行事に関連するもの。
- （3）美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品等に関連するもの。

2 美術館開館日に実施するもので、かつ美術館主催行事に支障がないものであること。

3 美術館の施設使用に関する次の開催条件を受け入れること。

（1）事業の実施時間は原則として美術館の開館時間内とし、予定した時間を厳守すること。

- （2）使用施設は事前に美術館と協議の上決定すること。
- （3）事業終了後は、施設を使用前の状態に復帰させること。
- （4）許可なく施設の設備・器材等の操作を行わないこと。
- （5）上記によりがたい場合は、事前に美術館と十分に協議すること。

4 事故・損害等の負担については、主催者と美術館が共同責任を負うこと。ただし、前項の開催条件を守らない一方的な過失による破損等の場合は、主催者が全額負担すること。

（その他）

第9 この要綱に定めるもののほか、実施について必要な事項は、別に館長が定めるものとする。

附則

（施行日）

1 この要綱は、令和3年6月8日から施行する。

◆予算

【令和3年度予算内訳】 *各款・項・目の合計は千円未満切り上げ

歳入

科目(款・項・目・節)	最終予算額(千円)
使用料及び手数料	8,849
└ 使用料	8,849
└ 行政財産使用料	766
└ 土地使用料	40
└ 建物使用料	726
└ 教育使用料	8,083
└ 美術館使用料	8,083
財産収入	1,710
└ 財産売払収入	1,710
└ 物品売払収入	1,710
諸収入	40,950
└ 雑入	40,950
計	51,509

歳出

科目(款・項・目・節)	最終予算額(千円)
教育費	269,184
└ 教育総務費	3,360
└ 事務局費	1,364
└ 報酬	533
└ 共済費	824
└ 旅費	7
└ 財務管理費	1,996
└ 交際費	16
└ 需用費	1,980
└ 社会教育費	265,824
└ 美術館費	265,824
└ 報酬	72
└ 報償費	1,050
└ 旅費	3,687
└ 需用費	70,460
└ (食糧費)	(36)
└ 役務費	9,344
└ 委託料	136,813
└ 使用料及び賃借料	1,259
└ 負担金、補助及び交付金	43,106
└ 公課費	33
災害復旧費	17,387
└ 文教施設災害復旧費	17,387
└ 公立文教施設災害復旧費	17,387
└ 需用費	13,817
└ 委託料	3,570
計	286,571

◆施設・設備

【建築の概要】

設計 大高建築設計事務所

施工 鹿島建設株式会社仙台支店（建築・外観）

敷地面積 60,500㎡

建築面積 6,471.5㎡

延床面積 9,680.7㎡

建物構造 鉄筋コンクリート造（一部S造・2階建）

総工費 約49億円（本体、外構含む）

【設備の概要】

電気設備

- 1- 受変電設備：受電力 1,100W
- 2- 動力設備
- 3- 電灯・コンセント・照明（調光設備：各展示室、調光装置：講堂・講義室各1台）
- 4- 自家発電機設備
- 5- 避雷針
- 6- 電気時計
- 7- 火災報知設備
- 8- 防火扉・防煙設備
- 9- 拡声設備
- 10- インターホン設備
- 11- ITV 設備
- 12- 防犯設備
- 13- ビデオ設備
- 14- 蓄電池設備
- 15- 電話設備

空気調和設備

- 1- 熱源設備：
 - 展示室・収蔵庫系統＝空気熱源スクルーヒートポンプ、120RT＋熱回収ヒートポンプ30RT 組合せ制御方式、冷水槽300㎡、温水槽250㎡
 - 一般系統・図書館系統＝灯油だき冷温水発生器150RT 2台
- 2- 空調設備：単一ダクト方式
 - 展示室4系統、収蔵庫3系統、ケース内4系統、一般系統7系統（一部フロアコイル併用）
- 3- 換気設備：50系統
- 4- 排煙設備：機械排煙6系統
- 5- 床暖房：2系統
- 6- 自動制御設備：中央監視盤、温湿度監視盤

給排水衛生設備

- 1- 熱源：都市ガス（厨房・実習室・工作修復室）／他は全て電器煮沸器を使用
- 2- 消化系：ハロン消火設備（収蔵庫3系統：共用機械室）／消火栓設備（消火ポンプ1台、屋内消火栓14台、動力ポンプ1台）
- 3- 燻蒸設備：ガスによる殺虫滅菌剤で燻蒸後吸着装置通過、規定濃度以下にして大気放出
- 4- 給水：受水槽45t（加圧給水）／直結給水
- 5- 排水：屋内は汚水・雑排水の分流式（外部で合流後、市下水道公共マスに接続）

昇降機設備

- 1- 乗用エレベーター：ロープ式、750kg 11名乗り1台
- 2- 荷物用エレベーター：油圧式、最大積載量3t 1台
- 3- 乗用エレベーター：油圧式、600kg 9名乗り1台

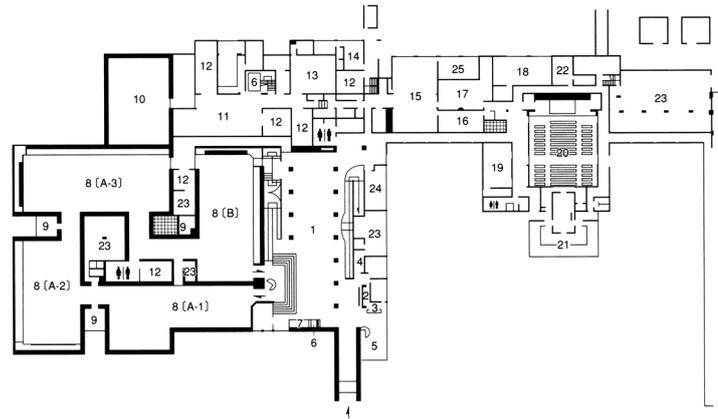
【内部仕上げの概要】

- 1- エントランスホール
 - 床：御影石バーナー仕上げ（一部長尺塩ビシート張）
 - 壁：栓練付石綿ケイカル板
 - 天井：栓練付石綿ケイカル板
 - その他：一部床暖房設備
- 2- 収蔵庫
 - 床：パーケットブロック、ぶな素地
 - 壁：米杉、矢羽根板張
 - 天井：米杉、本実目透張
 - その他：収納棚、絵画収納ラック
- 3- 企画展示室
 - 床：長尺塩ビシート張
 - 壁：合板捨張の上に準不燃合板、特注クロス張
 - 天井：栓練付パネル
 - その他：大型可動壁（幅8,770mm×高3,770mm、11枚）
 - 固定ケース前可動壁：（幅1,600mm×高4,050mm、延長約72m）
 - 固定ケース：（A-2、A-3、B：総延長72.3m）
- 4- 常設展示室
 - 床：タフテッドループカーペット
 - 壁：常設A- 栓練付ケイカル板
常設B- 大理石空積、水磨き仕上げ
常設C・D- くるみ練付ケイカル板
 - 天井：常設A- 栓練付パネル
常設B・C・D- くるみ練付パネル
 - その他：固定ケース（常設A、16.2m）
- 5- 講堂
 - 床：タイルループカーペット
 - 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 - 天井：ビニールクロス張
 - その他：座席数246（うち車椅子席4）／ステージ幅12m×奥行3.2m
- 6- 講義室
 - 床：タイルカーペット
 - 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 - 天井：岩綿吸音板
- 7- 実習室
 - 床：エポキシ系塗床
 - 壁：モルタル金ゴテVP
 - 天井：岩綿吸音板
- 8- 軽食喫茶室
 - 床：長尺塩ビシート張
 - 壁：くるみ練付パネル、粒状岩綿吸音材（一部）
 - その他：テーブル44席
- 9- その他
 - 搬出入口：ホイストクレーン2.8t／テーブルリフター
 - 写真室：電動スクリーン

◆施設配置図

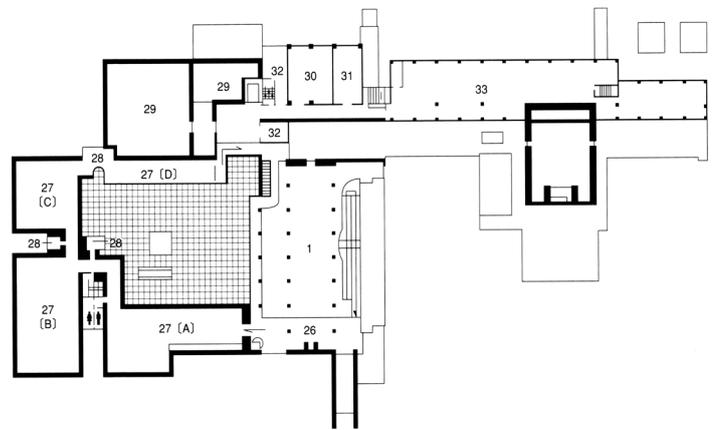
【1階】

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. エントランスホール | 14. 警備室 |
| 2. 受付案内 | 15. 事務室 |
| 3. ブックショップ | 16. 応接室 |
| 4. ロッカー室 | 17. 研究図書室 |
| 5. 図書コーナー | 18. 実習室 |
| 6. エレベーター | 19. 講義室 |
| 7. ビデオコーナー | 20. 講堂 |
| 8. 企画展示室 | 21. 軽食喫茶室 |
| 9. 休憩室 | 22. 中央監視室 |
| 10. 収蔵庫 A | 23. 機械室 |
| 11. 荷解梱包室 | 24. 館長室 |
| 12. 倉庫 | 25. 副館長室 |
| 13. 写真室 | |



【2階】

- | |
|-------------|
| 26. ロビー |
| 27. 常設展示室 |
| 28. 休憩室 |
| 29. 収蔵庫 B・C |
| 30. 工作修復室 |
| 31. 会議室 |
| 32. 倉庫 |
| 33. 機械室 |



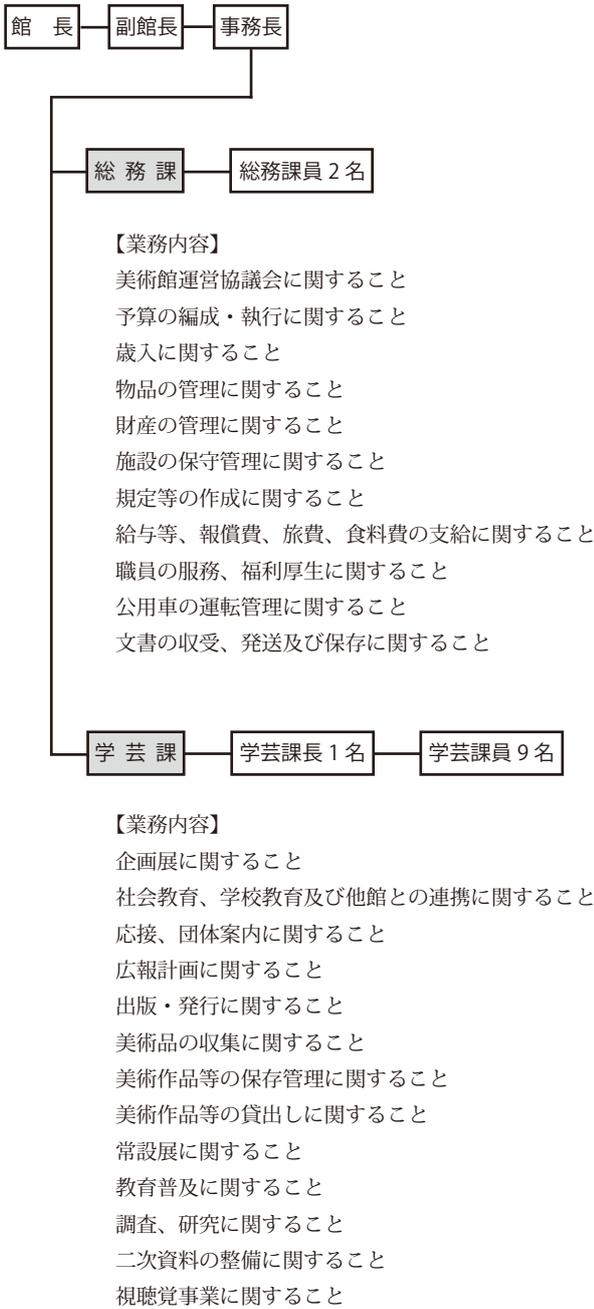
◆部門別専有面積 (*は県立図書館と共用)

サービス部門	1223.8m²
エントランスホール	817.3m ²
受付案内	(ホールに含む)
ブックショップ	(ホールに含む)
ロッカー室	(ホールに含む)
図書コーナー	(ホールに含む)
ロビー	202.1m ²
*軽食喫茶室	179.0m ²
授乳室・救護室	25.4m ²
展示部門	3064.4m²
企画展示室 A (A-1,2,3)	1380.8m ²
企画展示室 B	431.1m ²
	(企画展示室合計 1811.9m ²)
常設展示室 A	403.1m ²
常設展示室 B	359.1m ²
常設展示室 C	143.8m ²
常設展示室 D	132.8m ²
	(常設展示室合計 1038.8m ²)
展示用具室	141.2m ²
展示用具室 2	72.5m ²
収蔵部門	1365.3m²
収蔵庫 A	280.2m ²
収蔵庫 B	368.7m ²
収蔵庫 C	105.1m ²
一時保管庫	51.8m ²
収蔵庫前室	57.6m ²
搬出入口	65.7m ²
荷解梱包室	188.8m ²
梱包倉庫	77.7m ²

荷扱人控室	29.6m ²
燻蒸室	33.3m ²
工作修復室	106.8m ²
普及部門	654.6m²
*講堂	498.6m ²
講義室	73.9m ²
実習室 (準備室含む)	82.1m ²
研究部門	187.2m²
研究図書室	88.7m ²
写真室	98.5m ²
管理部門	1832.7m²
応接室	48.0m ²
副館長室	34.0m ²
事務室 (総務課・学芸課)	174.0m ²
会議室	73.3m ²
館長室	43.2m ²
事務機械室	16.0m ²
警備室	54.7m ²
更衣室	8.7m ²
受付控室	15.4m ²
給湯室	4.4m ²
倉庫	33.0m ²
*機械室	1266.4m ²
車庫	61.6m ²
その他(化粧室・廊下・階段等)	1330.8m²

◆組織図・職員名簿

1. 組織図



[外部機関]

美術館運営協議会 10名

収集評価委員会 5名

2. 職員名簿 (2022年3月31日現在)

名誉館長	酒井 哲朗 (2016.4.1-)
館長	長根由里子 (2020.4.1-)
副館長心得兼社会教育課副課長兼学芸課長	堀 宜雄 (1989.4.1-)
事務長	小山田八重子 (2020.4.1-)
総務課 主査	村上 茂利 (2021.4.1-)
総務課 同	嶋原 由夏 (2018.4.1-2022.3.31)
学芸課 専門学芸員	増渕 鏡子 (1993.4.1-)
学芸課 主任学芸員	宮武 弘 (1992.4.1-)
学芸課 同	大北 孝 (2018.4.1-)
学芸課 同	紺野 朋子 (2012.4.1-)
学芸課 同	坂本 篤史 (2014.4.1-)
学芸課 副主任学芸員	白木ゆう美 (2014.4.1-)
学芸課 学芸員	橋本 恵里 (2017.4.1-)
学芸課 専門員	伊藤 匡 (2017.4.1-2022.3.31)
学芸課 同	荒木 康子 (2021.4.1-)

□利用案内

1. 開館時間

9時30分～17時（最終入館は16時30分まで）

※夜間開館を行うことがあります。

2. 休館日

1) 月曜日（祝祭日をのぞく）

2) 祝祭日の翌日（土日をのぞく）

3) 年末年始（12月28日～1月4日）

※都合により臨時休館を行うことがあります。

3. 観覧料

1) 常設展

一般・大学生：280円（220円）、高校生以下：無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

2) 企画展 その都度料金が変わります。

※企画展の料金で常設展もご覧になれます。

※企画展のみの観覧券は発行していません。

※ふくしま教育週間（11月1日～7日、ただし休館日は除く）

中は、小・中・高校生は企画展料金も無料。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は企画展料金が無料

（身体障害者手帳・療育手帳1種、精神障害者保険福祉手帳

1級をお持ちの方は付き添いの方も無料）

4. 常設展無料

1) 子供の日（5月5日）、県民の日（8月21日）、

敬老の日（9月第3月曜）、文化の日（11月3日）

2) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方（それぞれ第1種または1級の方は付き添いの方も無料）

3) 小・中・高校生（団体の場合、引率者も無料）

5. 常設展減額免除

常設展料金無料：大学生が、学校活動の一環で観覧するとき

常設展料金半額：公民館や公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき

※事前申請が必要です。いずれも引率者は無料となります。

6. 年間観覧券

常設展示・企画展示ともに、購入より一年間有効

（一般・大学生3,000円／高校生1,800円／小・中学生1,200円）

7. 交通案内

1) J R 福島駅（東口）より

電車：福島交通飯坂線「美術館図書館前駅」下車、徒歩2分

バス：9番バス乗り場より、福島交通もりん2コース「県立美術館入口」下車、徒歩4分

タクシー：約5分

2) 自家用車

東北自動車道・福島飯坂ICより約15分、福島西ICより約20分 ※駐車場150台収容

福島県立美術館年報 令和3年度・2021

2023年2月28日 発行

編集・発行 福島県立美術館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

電話 024-531-5511

ファックス 024-531-0447

ホームページ <https://art-museum.fcs.ed.jp>

印刷

株式会社プロセス印刷

